

第 II 部

「大学生のキャリア展望と
就職活動に関する実態調査」の結果

第Ⅱ部 「大学生のキャリア展望と就職活動に関する実態調査」の結果

1. 調査の目的と背景

大卒就職・採用の今後のあり方を検討するためには、その現状を正確に把握する必要がある。本調査は、その一環として、現在の大学4年生のキャリア展望と就職活動の実態を明らかにすることを目的とする。

2. 調査対象の抽出と調査方法

調査対象：全国の4年制大学(医学・看護学・宗教学の単科大学を除く)のうち、協力を得られた276校の4年生(医学部、歯学部、看護学部部の学生を除く)。調査票配布数は、約49,000票(WEB調査分を除く)。各大学における学生の抽出は、できる限り該当大学の学生全体を代表する構成になるように依頼したが、学事日程等の都合で、内定者のみに配布した場合や一部の学部のみ配布したことがある。また、配布数も、大学の状況によって異なり一律ではない。

調査方法：各大学の就職部・キャリアセンターを通して学生に配布した。具体的には、就職ガイダンス等やゼミ等の機会に直接配布する、大学から学生宅に郵送する、大学からWEB調査のアドレスを配信・掲示する、のいずれかの方法によった。また、WEB調査分以外の回収は、回答者が各自封入後、大学で回収してからの返送と本人からの直接の郵送の2通りによった。

実施時期：2005年10月～11月

有効回収票数：18,509票

内訳：WEB調査以外=16,486票、回収率33.6%、WEB調査=2,023票(38校)

3. 調査回答者の基本属性

本調査回答者の特徴を図表Ⅱ－1～3に示す。性別には女性が若干多く、文部科学省「学校基本調査」による平成17年卒業者から推測される母集団(現在の4年制大学の4年次在籍学生)に比べて、女性比率が高いサンプルである。年齢別には過半数が22歳で、24歳以上の者はごくわずかである(図表Ⅱ－1)。

回答者の所属大学の特徴は、図表Ⅱ－2のとおり。大学設置者の構成については、母集団に比べて私立大学が若干少ないものの、あまり違わない。

地域別には、母集団に比べれば、南関東の大学に在籍する者の比率が低く、中部・東海地方、九州・沖縄地方、北海道・東北地方の大学に在籍する者の比率が高い。

図表Ⅱ－1 回答者の性別・年齢別構成

		単位%、太字は実数			
		合計	男性	女性	無回答
合計		18,509	8,716	9,757	36
構成比		100.0	47.1	52.7	0.2
	(学校基本調査構成比)*	100.0	57.8	42.2	
		100.0	100.0	100.0	100.0
年齢	21歳	33.6	31.7	35.4	22.2
	22歳	52.6	51.3	53.9	36.1
	23歳	9.4	11.9	7.2	0.0
	24歳	2.0	2.8	1.2	5.6
	25歳以上	2.1	2.1	2.1	8.3
	無回答	0.2	0.2	0.2	27.8

注:*文部科学省「平成17年度学校基本調査」における4年制大学卒業者

図表Ⅱ－2 回答者の在籍大学の設置者・地域・設置年

		単位%、太字は実数				(学校基本調査*)
		大学設置者				
		国立	公立	私立	合計	
合計		3,972	1,670	12,867	18,509	551,016
構成比		21.5	9.0	69.5	100.0	
	(学校基本調査構成比*)	18.4	4.1	77.5	100.0	
		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
大学地域	北海道・東北	16.3	4.4	10.2	11.0	7.6
	北関東	0.9	6.4	2.5	2.5	2.8
	南関東	5.2	2.8	32.1	23.7	40.7
	中部・東海	24.3	13.2	20.0	20.3	12.9
	近畿	1.8	25.1	20.7	17.1	20.5
	中国・四国	15.2	28.8	5.9	9.9	6.7
	九州・沖縄	36.3	19.3	8.6	15.5	8.7
設置年	～50年	84.8	31.2	30.4	42.2	
	50～90年	11.0	39.4	47.4	38.9	
	90年～	4.2	29.4	22.2	19.0	

注:*文部科学省「平成17年度学校基本調査」における4年制大学卒業者

対象者の所属する学部系統は、社会科学系、工学系、人文科学系学部が多い。「平成17年版学校基本調査」による大学卒業生の学部系統別比率をみてもこの3学部系統の比率が高く、今回の回答者の学部系統の分布は、おおむねのところは、全体傾向を代表しているといえよう。

なお、本調査回答者のうち、海外からの留学生であることが明らかな者は、1.3%とごく少なかった。

図表Ⅱ－3 回答者の所属学部系統

		大学設置者				単位%、太字は実数	
合計		国立	公立	私立	合計	(学校基本調査*)	
		3,972	1,670	12,867	18,509	551,016	
学部系統	人文科学	7.2	17.7	23.8	19.7		16.8
	商・経	13.8	24.9	22.7	21.0	社会科学系	34.8
	法学	5.5	1.1	6.3	5.6		
	社会福祉	0.4	4.4	6.3	4.8		
	政策・社会・その他社会科学	2.9	2.0	3.7	3.4		
	理学	6.6	0.8	1.0	2.2		3.5
	工学	25.5	28.7	16.8	19.8		17.8
	農学	8.6	2.6	1.3	3.0		2.9
	保健	3.2	0.0	4.1	3.6		6.0
	教育	22.6	0.0	1.4	5.8		2.3
	家政・生活科学	0.0	3.7	7.8	5.7		5.7
	芸術	0.2	14.2	4.2	4.3		2.9
	水産・商船	2.2	0.0	0.0	0.5	その他	1.1
	人文・社会融合	0.3	0.0	0.1	0.2		
	文理融合	1.0	0.0	0.4	0.5		
	無回答	0.1	0.0	0.1	0.1		

注:*文部科学省「平成17年度学校基本調査」における4年制大学卒業生

4. 就職への準備活動・就職活動の状況

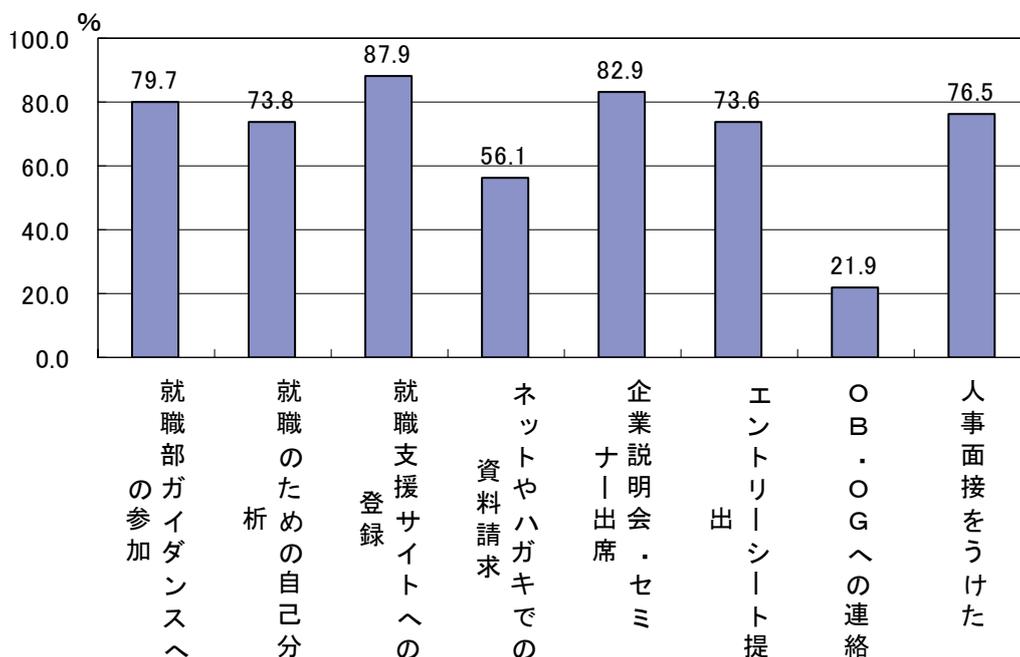
調査回答者の92.5%が就職に備えて何らかの活動を経験していた*。

*就職支援サイトへの登録、資料請求、企業説明会・セミナー会社説明会への参加、エントリーシートの提出、人事面接を受けること、就職のための自己分析の開始、OB・OGへの連絡のいずれかを行ったか、あるいは、「就職活動をした」と回答した者(大学就職部のガイダンスに参加したのみの者は除外)。

就職のための活動のうち、最も多くの者が行ったのは、就職支援サイトへの登録であり、次いで企業説明会・セミナーへの出席である。OB・OGに連絡を取ったものは少なく、また、半数近くは企業に資料請求をしていない。インターネットを通し配信されている求人情報・企業情報が、学生が頼る情報の中心となっていることがうかがえる。

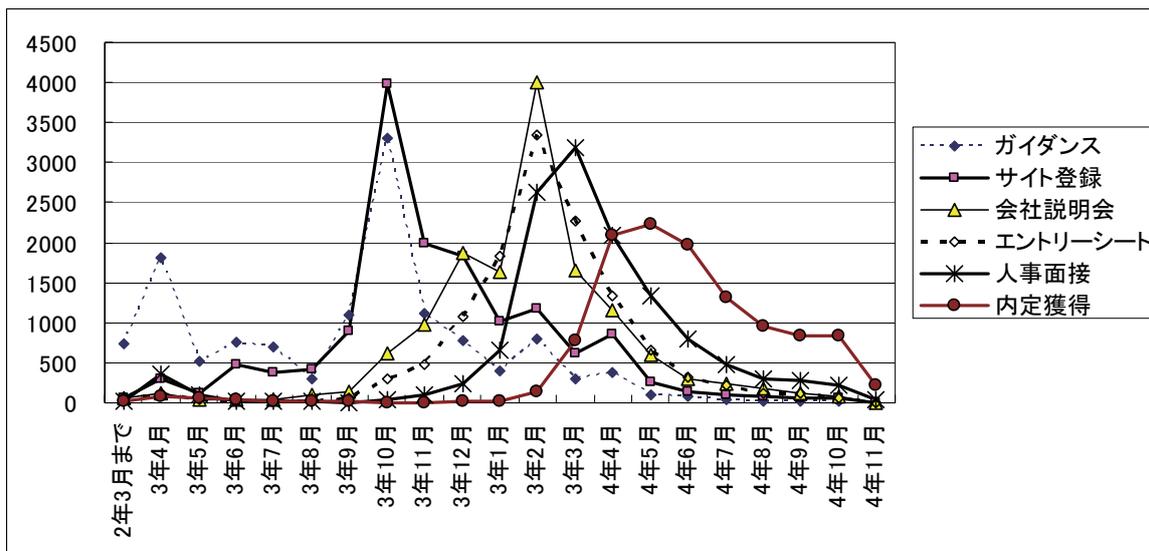
なお、大学就職部主催のガイダンスに参加したものは、8割程度であった。

図表Ⅱ－4 就職ための活動の実施状況（何らかの準備活動をした者＝100）



就職のための各活動を初めて行った時期をみると(図表Ⅱ-5)、最も多くの者が大学就職部のガイダンスを初めて受けるのが、3年生の10月、就職支援サイトへの登録も10月、企業説明会・セミナーが2月、エントリーシート提出が2月、面接2~3月であった。就職のための自己分析及び資料請求は、3年生の10月に始める者が多く、OB・OGへの連絡は4年生の4月に始める者が最も多い。

図表Ⅱ-5 就職の準備のための諸活動を初めて行なった時期



単位:%、太字は実数

	ガイダ ンス	サイ ト登 録	自己分 析	資料請 求	企業説 明会	エント リーシ ート	OBOG へ連絡	人事面 接	内定獲 得
経験者計	13,880	15,050	12,629	9,609	14,191	12,603	3,756	13,093	12,182
2年3月まで	5.3	0.4	2.4	0.5	0.4	0.1	1.7	0.1	0.1
3年4月	13.1	2.0	4.1	1.7	0.9	1.0	2.6	2.8	0.7
3年5月	3.7	0.9	1.3	0.4	0.2	0.3	0.6	0.7	0.5
3年6月	5.5	3.1	1.8	0.9	0.3	0.2	0.6	0.2	0.3
3年7月	5.0	2.5	1.9	0.7	0.3	0.1	0.6	0.1	0.2
3年8月	2.1	2.8	2.8	1.4	0.6	0.2	1.2	0.1	0.1
3年9月	7.9	5.9	4.6	2.9	0.9	0.4	1.4	0.1	0.1
3年10月	23.9	26.5	15.6	17.2	4.4	2.4	3.9	0.3	0.1
3年11月	8.1	13.2	10.2	14.0	6.8	3.8	2.9	0.8	0.0
3年12月	5.6	12.1	13.7	16.5	13.2	8.6	5.6	1.9	0.1
3年1月	2.8	6.8	9.8	11.7	11.5	14.5	5.6	5.0	0.2
3年2月	5.8	7.8	11.1	12.6	28.1	26.5	9.6	20.1	1.1
3年3月	2.1	4.2	6.0	6.4	11.7	18.1	9.8	24.3	6.3
3年4月	2.7	5.7	6.9	6.2	8.2	10.5	10.7	16.0	17.1
3年5月	0.7	1.7	2.0	2.2	4.2	5.3	6.7	10.1	18.3
3年6月	0.5	0.9	1.2	1.0	2.1	2.5	3.4	6.0	16.1
3年7月	0.3	0.6	0.7	0.8	1.6	1.7	2.2	3.6	10.8
3年8月	0.2	0.5	0.7	0.6	1.3	0.9	1.9	2.3	7.8
3年9月	0.1	0.4	0.4	0.4	0.9	1.0	1.2	2.2	6.8
3年10月	0.2	0.3	0.3	0.2	0.5	0.5	0.8	1.7	6.9
3年11月	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.2	1.7

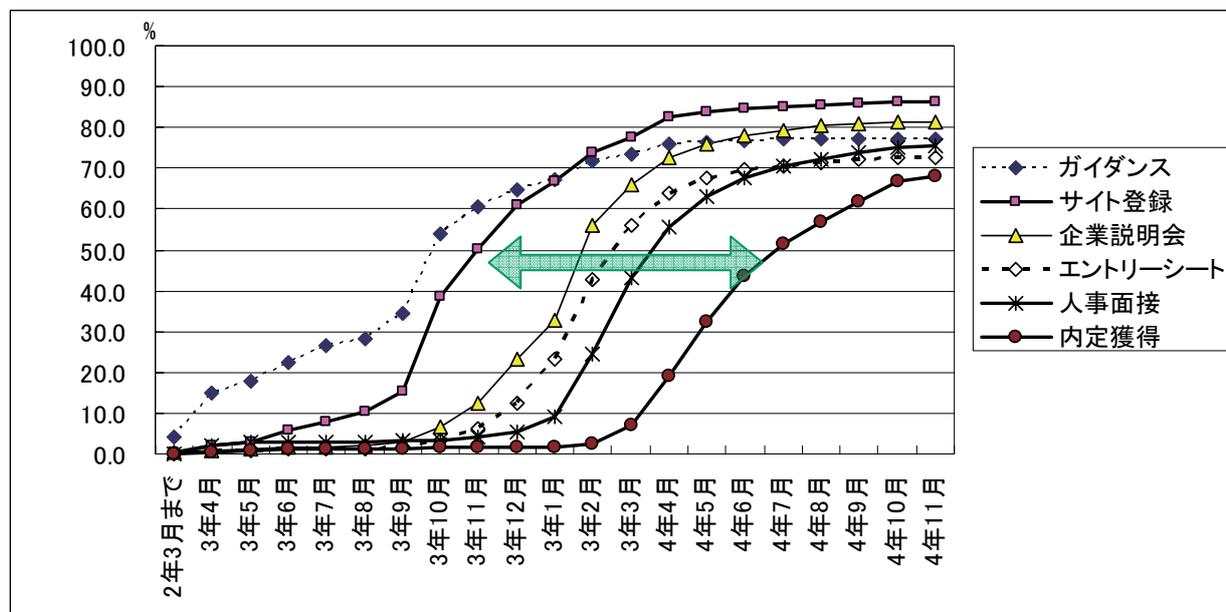
これを累計にして(図表Ⅱ-6)、過半数が経験する時期と新たに始める者がほぼいなくなる時期を見ると、就職支援サイトへの登録は11月には過半数がしており、その後、3月までは徐々に登録する者が増加しそれ以降はほとんど増えない。企業説明会・セミナーへの出席は2月に、エントリーシートの提出は3月、採用面接は4月には過半数が経験する。これらは7月ぐらいまで徐々に増えている。遅い者ではこの頃に初めてこうした活動を始めているが、これ以降は新たに開始する者はごくわずかである。

なお、初めての内定は4月から6月にもらうことが多いが、就職のための活動をした者のうちの半数にまで達するのは7月ごろである。また、それ以降11月の調査時点まで、内定獲得者は徐々に増えており、内定獲得の時期は長期にわたっている。

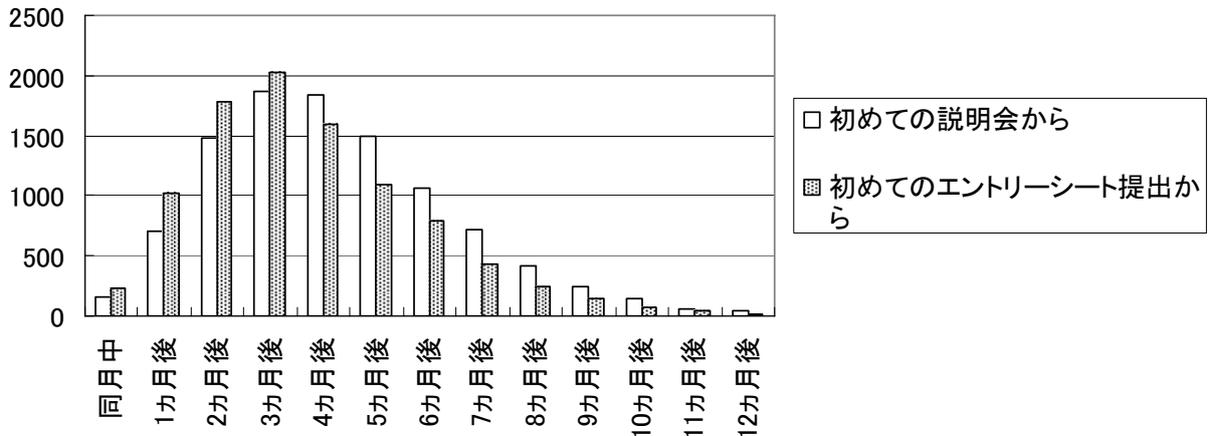
過半数の者の経過で考えれば、3年生の10~11月ごろに就職支援サイトに登録し、2月ごろから企業に直接接触して、7月ごろまでに内定を得て終えるということになる。

内定獲得者について、個々に内定を得た月からさかのぼって何ヶ月前に会社説明会に出席し、エントリーシートを提出したかを集計してみると、図表Ⅱ-7のとおり、2ヶ月から5ヶ月の範囲で終えている。この分散は正規分布に近い形であり、この時期までに内定を得たものについては、内定を得るまでに長期かかる者と短期に決まる者にと2極化しているわけではない。かかった期間を平均で示せば、最初の会社説明会出席からはおよそ4.2ヶ月、最初のエントリーシート提出から3.6ヶ月で内定を得ている(図表Ⅱ-8)。

図表Ⅱ-6 就職準備のための諸活動を初めて行った時期の累計



図表Ⅱ－７ 内定獲得までにかかった期間



注：12ヶ月以上は省いた

図表Ⅱ－８ 内定までにかかった平均期間

	単位：月	
	初めての説明会から	初めてのエントリーシート提出から
全体平均	4.2	3.6

注：それぞれ上下5%を除く平均値。

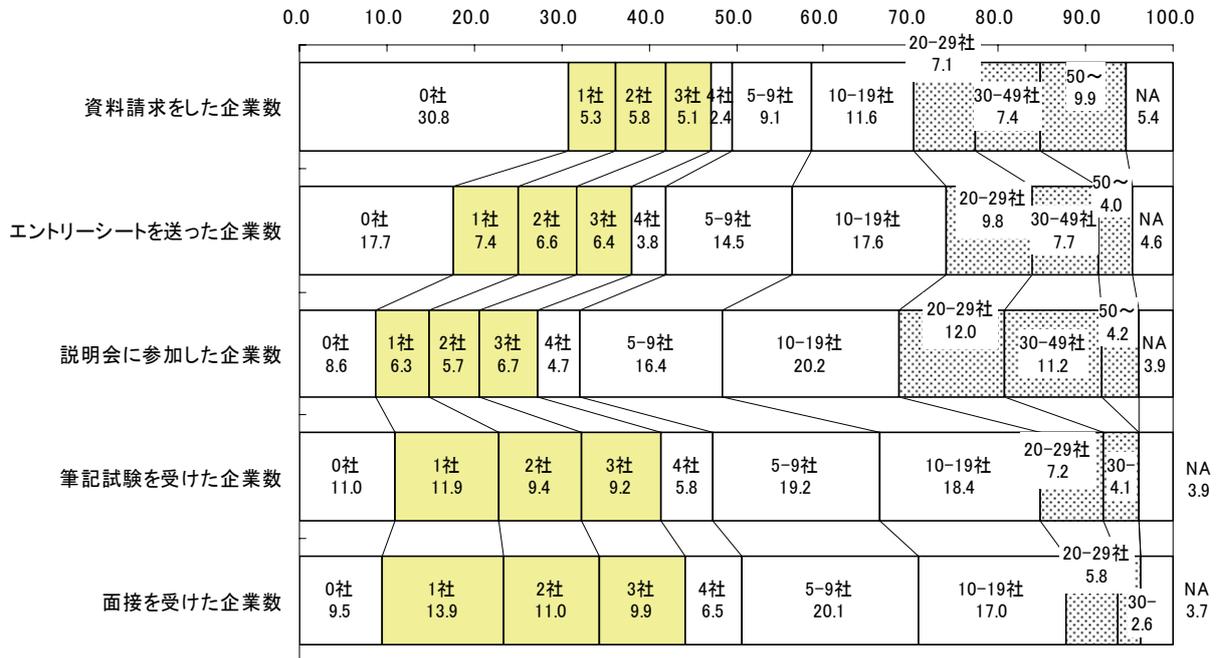
さて、就職支援サイトの登録や大学の就職ガイダンスへの出席などは、行っても「就職活動をした」と捉えていない場合もある。調査の中で「就職活動をした」とする者は、準備に当たる行動をした者のうち93.0%であった。

「就職活動をした」者には、具体的な企業との接触数を尋ねた。

この結果が図表Ⅱ－9だが、資料請求で3割、エントリーシートでは2割、説明会、筆記試験は1割が「0社」としており、「就職活動をした」という者でも具体的な接触に進んでいない場合が少なからずあることがうかがえる。さらに、3社以内の接触にとどまるものも少なく、これを加えると、エントリーシートの送付で4割、説明会で3割が、かなり限定的な範囲で行動している。

一方、20社以上にエントリーシートを書いたり説明会に行ったりしている者も2～3割おり、就職活動の活動量は学生により大きな違いがあるといえる。

図表Ⅱ－９ 就職活動をした者の企業との接触の内容と接触企業数



図表Ⅱ－10 企業との接触内容と接触企業数(無回答を除く平均)

	エントリーシート送付企業	説明会参加企業数	筆記試験受験企業	面接を受けた企業数	内定企業数
合計	9.1	11.7	6.5	5.7	1.3

注;それぞれ上下5%を除く平均値。

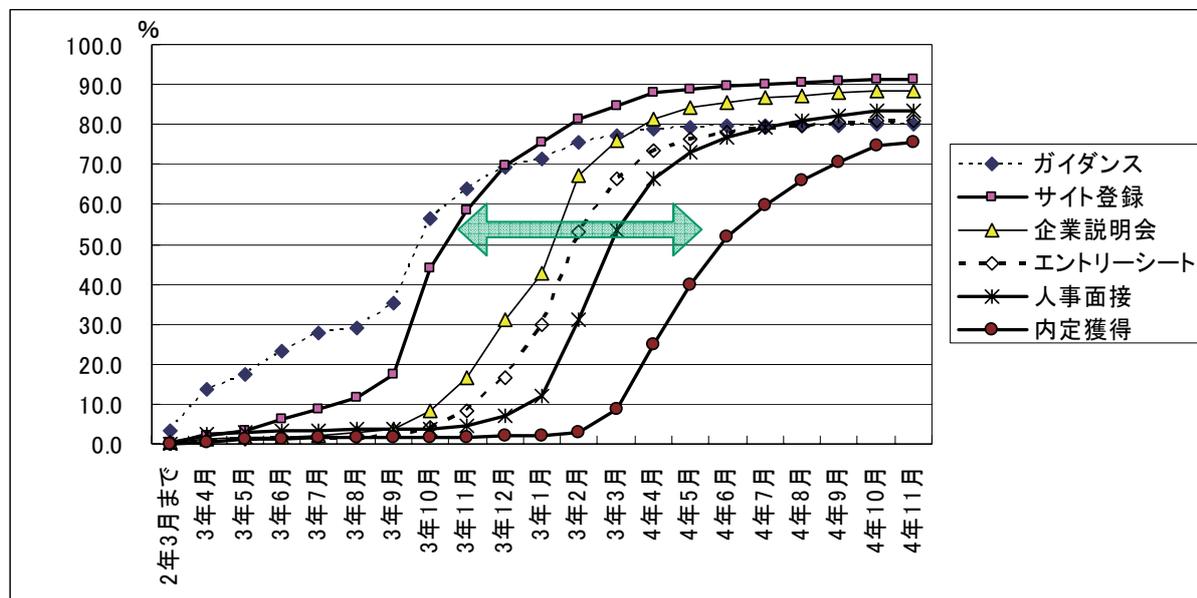
5. 学部系統と就職活動

就職活動のありようは、文系と理系で大きく異なることが知られている。自由応募の文系に対して、研究室や教授の推薦が影響力を持つ理系の就職といわれてきた。学生による就職活動の量の違いは、こうした学部系統による経路の違いを反映したものかもしれない。学部系統別に就職活動の状況を見る。

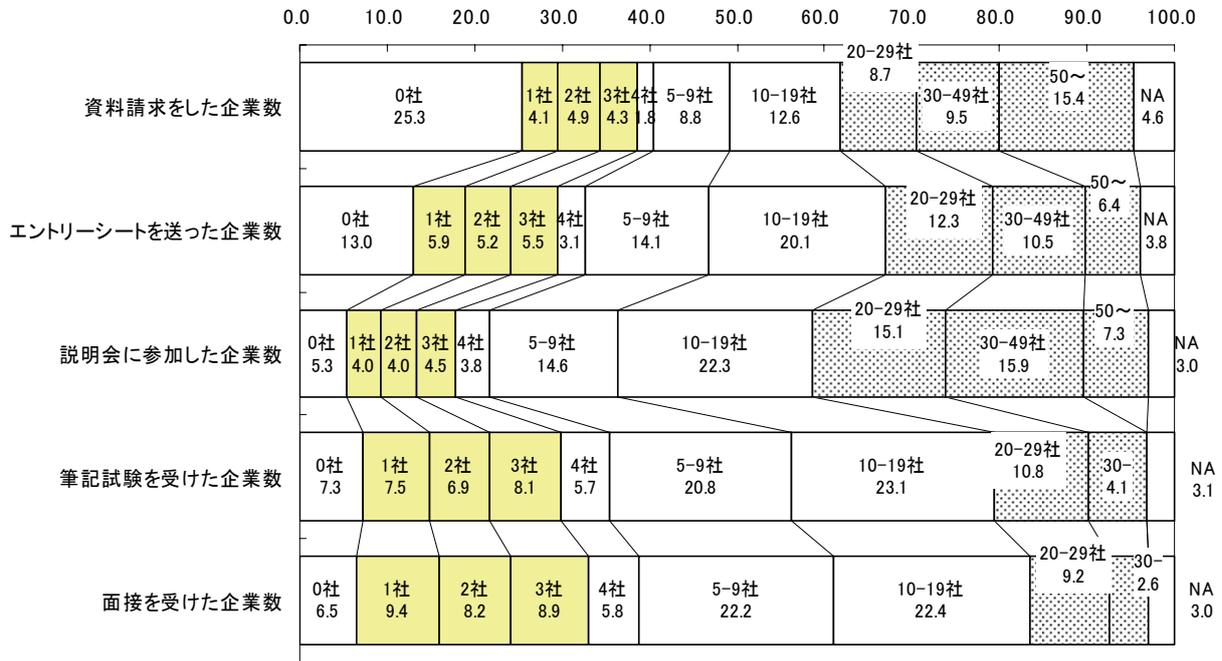
1) 社会科学系

まず、最も人数の多い社会科学系について、全体の平均と比べてみると、半数を超える者がエントリーシートを提出する時点、採用面接を受ける時点、内定を得る時点のすべてが、1月ほど早く(図表Ⅱ-11)、また、説明会参加企業、資料請求企業など接触企業が20社以上という活発な活動を行っている者が多い(図表Ⅱ-12)。平均値で見ても、エントリーシート提出から内定まで、どの学部系統より多い(図表Ⅱ-13)。また、内定獲得者の場合、初めての説明会出席から内定獲得まで平均4.4ヶ月、最初のエントリーシート提出からは3.7ヶ月で内定を得ている(図表Ⅱ-14)。

図表Ⅱ-11 就職のための諸活動を初めて行った時期の累計(社会科学系)



図表Ⅱ-12 就職活動をした者の企業との接触の内容と接触企業数（社会科学系）



図表Ⅱ-13 企業との接触内容と接触企業数（無回答を除く平均・学部系統別）

	エントリーシート送付企業	説明会参加企業数	筆記試験受験企業	面接を受けた企業数	内定企業数
合計	9.1	11.7	6.5	5.7	1.3
人文科学系	11.6	15.1	8.1	7.1	1.2
社会科学系	12.2	15.9	8.8	7.7	1.5
工学	7.1	9.4	5.5	4.6	1.3
理・農・薬学	6.8	8.1	4.6	3.9	1.2
教育	4.5	5.0	3.2	2.8	0.8
家政・生活	5.4	6.4	3.3	3.5	0.9
芸術	5.8	7.0	3.3	3.6	0.6
社会福祉	3.2	4.9	2.7	2.4	0.8

注;それぞれ上下5%を除く平均値。

図表Ⅱ-14 内定までにかかった平均期間(学部系統別)

	単位:月	
	初めての説明会から	初めてのエントリーシート提出から
全体平均	4.2	3.6
人文科学系	4.5	3.8
社会科学系	4.4	3.7
工学	3.7	3.1
理・農・薬学	3.8	3.5
教育	4.6	4.0
家政・生活	4.6	4.1
芸術	4.4	4.2
社会福祉	4.3	3.6

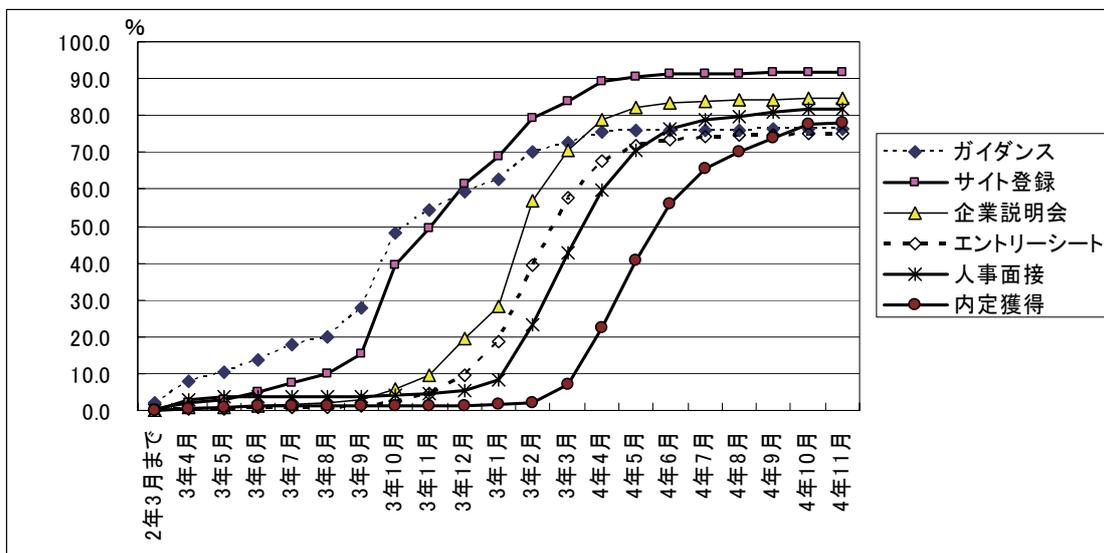
注;それぞれ上下5%を除く平均値。

2) 工学系

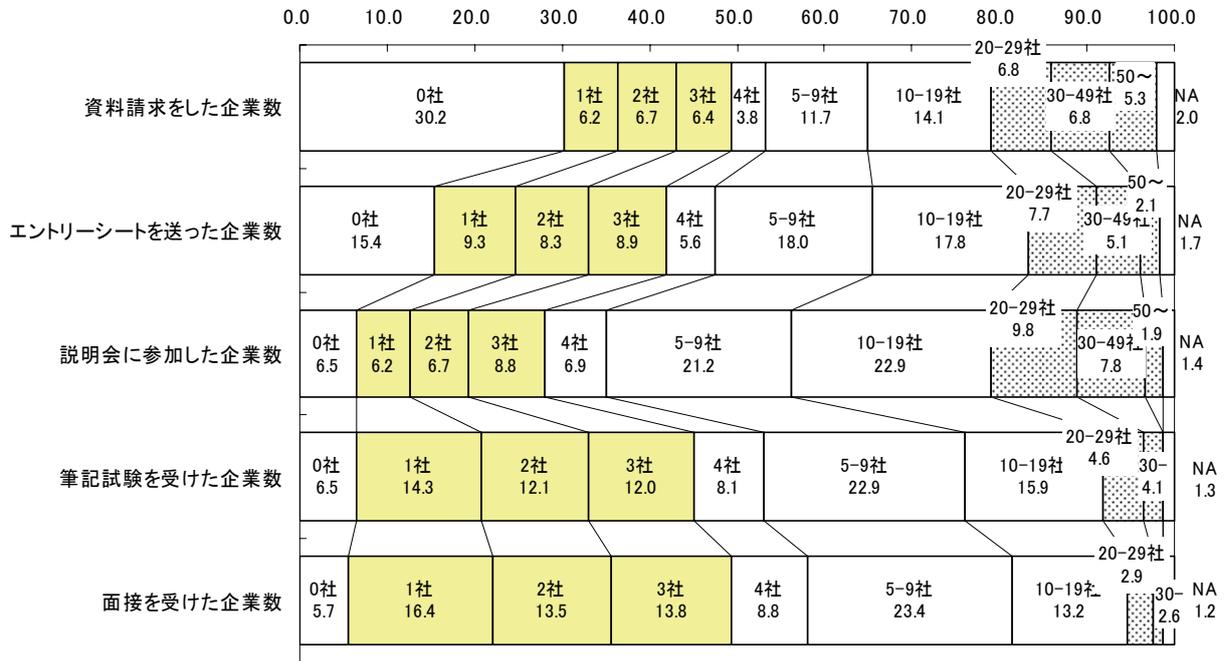
工学系の学生の場合も、諸活動のスタート時期は社会科学系とほぼ変わらない。民間企業就職者の多いこの両学部の学生が、就職活動を比較的早いタイミングで進めている。また、接触企業は、社会科学系より少ない者が多い。しかし、教授推薦で1社のみ受験するようなかつての技術系就職の状況ではなくなり、ほとんどの学生が複数企業に応募している。

内定獲得者の場合は、最初の会社説明会からは内定獲得までは3.7ヶ月、エントリーシートからは3.1ヶ月とどの学部系統より短期で終わる傾向がある。

図表Ⅱ-15 就職のための諸活動を初めて行った時期の累計(工学系)



図表Ⅱ－16 就職活動をした者の企業との接触の内容と接触企業数(工学系)

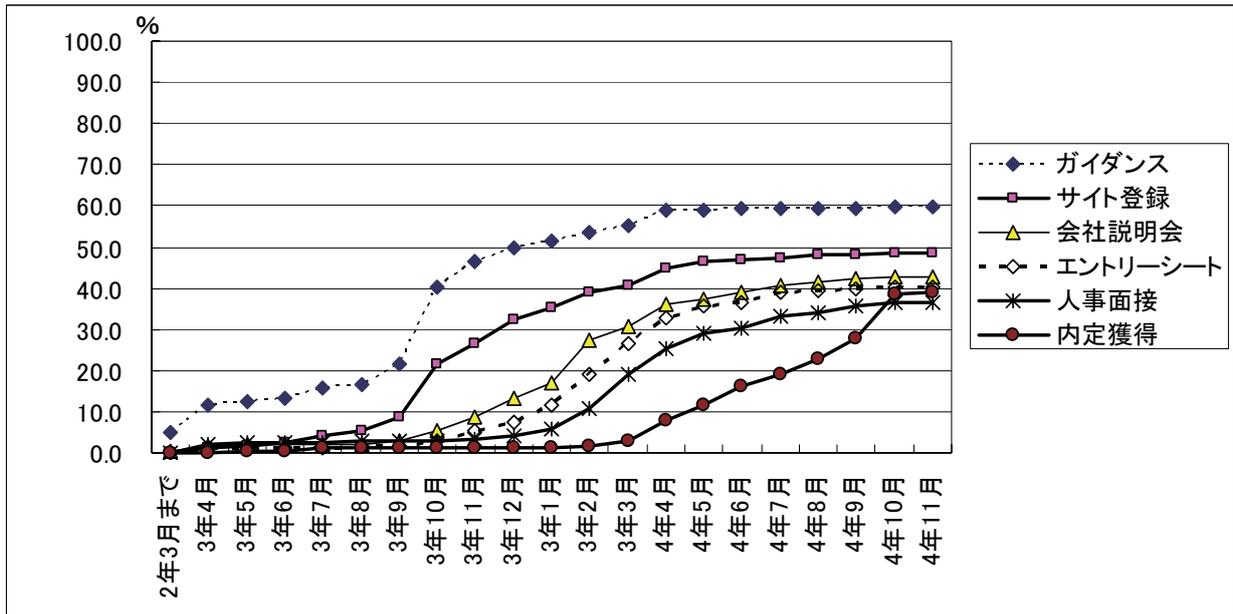


3) 教育系

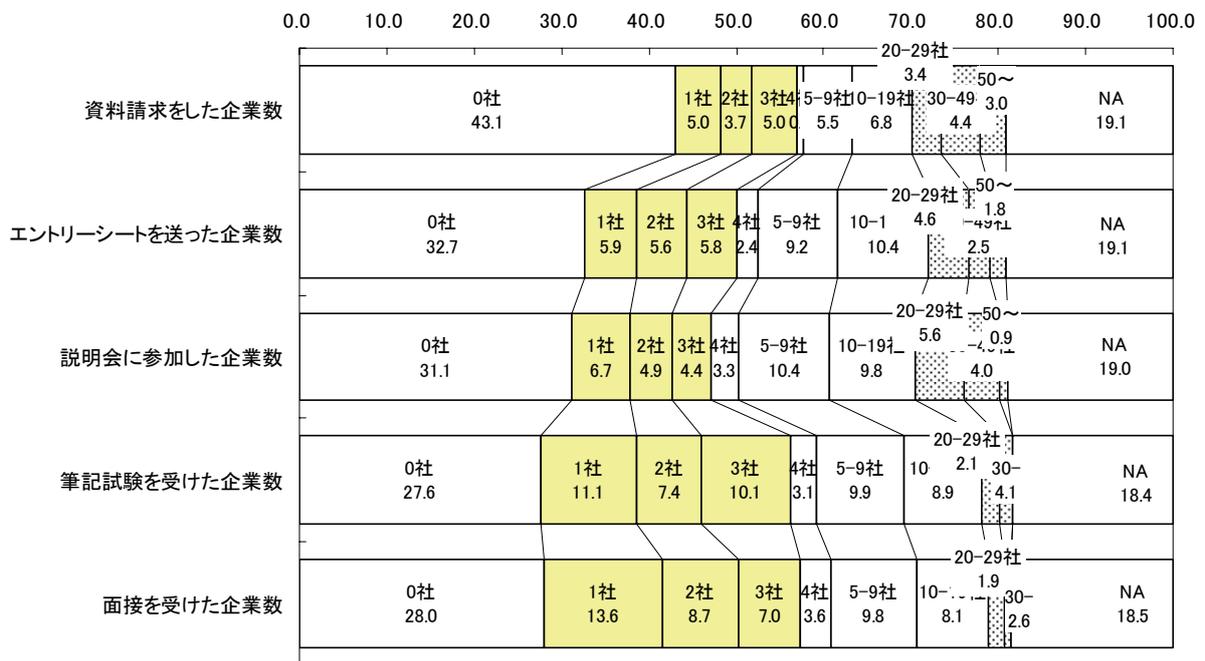
公務や教員など民間企業以外での就業や、民間企業でも特定の専門職での就業が多い学部系統では、就職活動のありようは大きく異なる。ここでは、その1例として教育系学部の状況を示す。(このほかの学部系統については、巻末の<資料1>に掲載している。)

さて、教育系学部の4年生では、就職支援サイトへの登録は5割程度にとどまる。多くの学生が教員を目指しているために、民間企業の採用情報を収集するものが少ないと言うことだが、むしろ5割が民間企業への就職も選択肢に入れた行動をとっていることに注目する必要があるだろう。専門的職業との関係がはっきりした学部系統では想定した専門的職業への就業支援に取り組む大学が多いと思われるが、一方、学生はそれ以外の経路も選択肢に入れていることが少なからずある。後に述べる就職活動の上で本人が困惑する事態の一つは、こうした専門的職業以外への就業の難しさであった。専門的職業の採用が比較的遅い時期に始まる一方、一般的大卒市場における採用活動は前倒しが進んでいる。時期の面も含め情報のギャップに困惑する学生が少なからずみられた。

図表Ⅱ-17 就職のための諸活動を初めて行った時期の累計(教育系)



図表Ⅱ-18 就職活動をした者の企業との接触の内容と接触企業数(教育系)

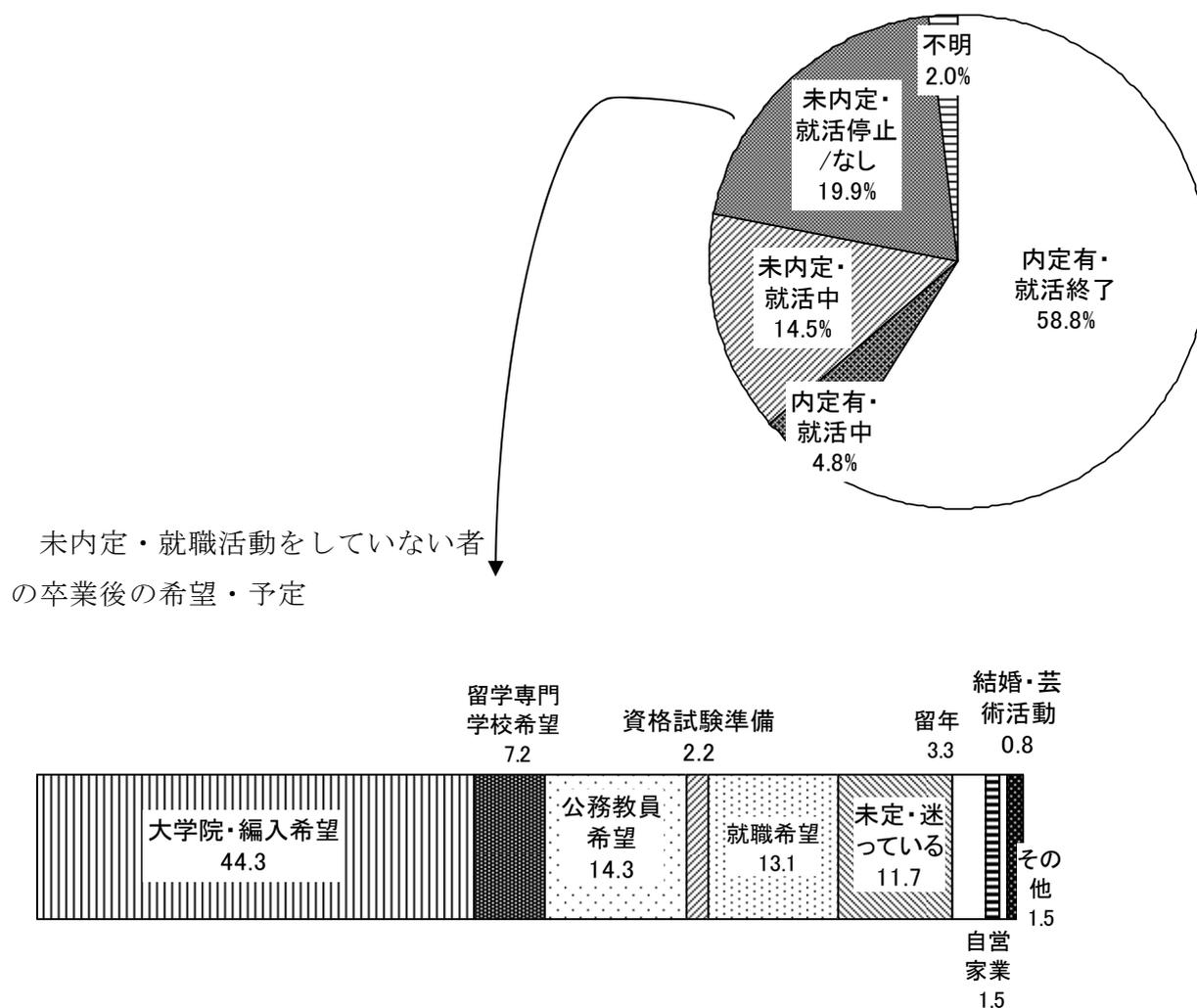


6. 就職活動の継続と卒業後の進路

1) 就職活動の継続と卒業後の進路(全体)

調査時点(2005年10月から11月)は卒業まで半年近く残しており、あくまでも途中段階ではあるが、この時点で内定を得て就職活動を終えている者が58.8%、内定はもらったが就職活動を継続中の者が4.8%、まだ内定をもらっておらず就職活動を継続中の者が14.5%いた(図表Ⅱ-19)。これに対して、内定企業がなく、かつ現時点で就職活動をしていないという者も19.9%いた。

図表Ⅱ-19 就職活動の継続状況と内定獲得および卒業後の予定進路

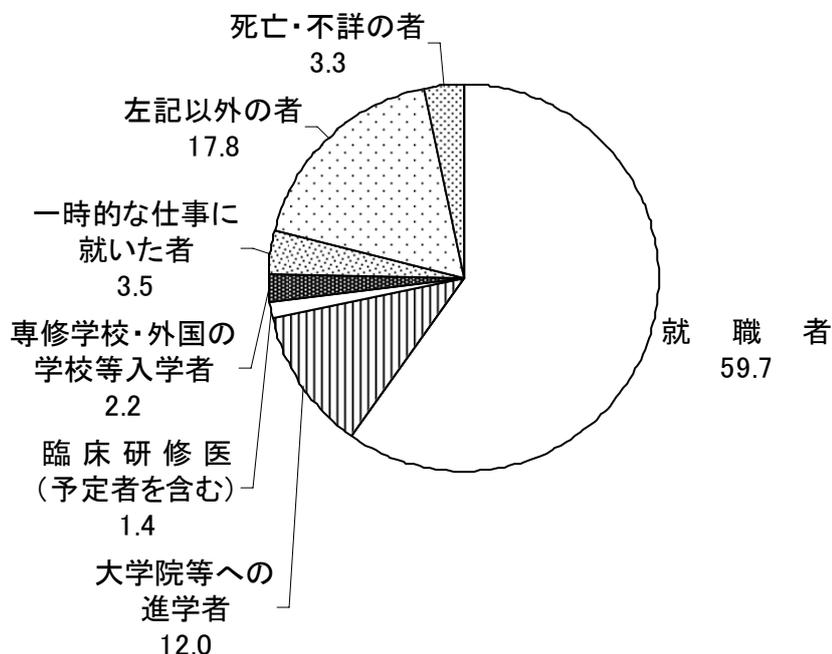


この内定企業がなく、就職活動をしていない者について、卒業後、予定している、ないし希望している進路をみると、大学院進学や他大学等への編入を希望・予定している者が44.3%と最も多い。このほか留学や専門学校への進学などを希望している者も少なくなく(7.2%)、その約半数が何らかの就学を目指している。

こうした就学を目指す以外の予定進路についてみてみると、まず、卒業後について「未定・迷っている」という者が11.7%いる。また、就業希望がありながら就職活動をしていない者が13.1%いる。このほか、公務員や教員を希望している者(未内定)が14.3%いる。

この就学以外の予定進路が、文部省「学校基本調査」による「無業」(平成 年版以降は「左記以外の者と表現されている」)に当たる進路である(図表Ⅱ-20)。図表Ⅱ-19中に示したように、他の資格試験受験の準備をするという者(2.2%)、自営・家業・起業(1.5%)、結婚・芸術活動など(0.8%)の進路を予定している者もいるが、大まかには、上記の3つ進路に3分されているといえるだろう。

図表Ⅱ-20 4年制大学卒業後の進路
(文部科学省(2005)「平成17年度学校基本調査」による)



さてその比率は、大卒者のどれほどを占めると考えるべきか。平成17年度「学校基本調査」による卒業後の進路の分布を見ると(図表Ⅱ-20)、就職者は59.7%となっている。本調査回答者は、この調査時点の内定者だけでも学校基本調査の就職者比率を上回っている。現在就職活動を続けている者にも、卒業時点には就職を決めている者が少なからず出ると見られるので、本調査サンプルは、大卒全体(母集団)と比べると就職者比率の高いサンプルになっている。

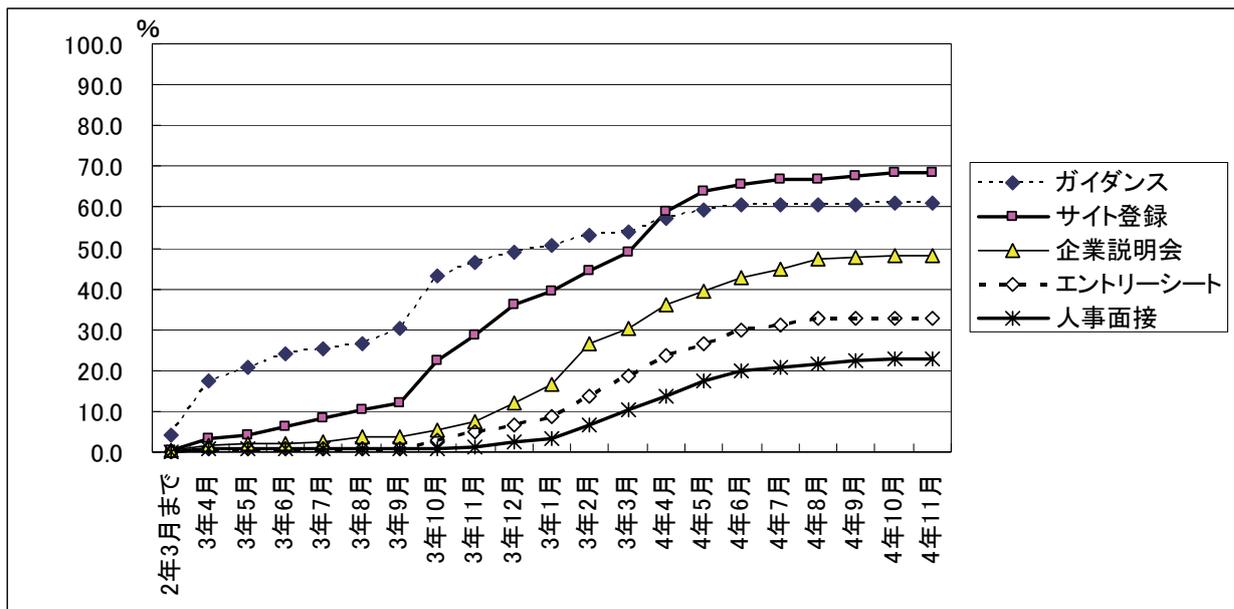
学校基本調査による「左記以外の者」17.8%の内訳が、大まかには先の3つの予定・希望に分けられると考えられるだろう。

つぎに、進路希望が決まらない者や就職希望がありながら就職活動をしていない者などの実態をみる。

2) 「未定・迷っている」者の就職準備・就職活動

調査時点で、就職活動をしていず、卒業後の進路を未定、又は迷っているとしている者の、これまでの就職への準備活動・就職活動の状況を見る(図表Ⅱ-21)。彼らのうち、何らかの就職に準備する行動をとった者は70.5%いた。すなわち約3割は、これといった活動をしないうまま調査時点まで来ている。また、就職支援サイトへの登録時期は、全体平均と比較すると遅めで、4年の5月ぐらいまで新たに登録する者がいる状態である。タイミングが遅い者もいるが、約7割はいったんは就職に向けて動き始めているという点が重要だろう。

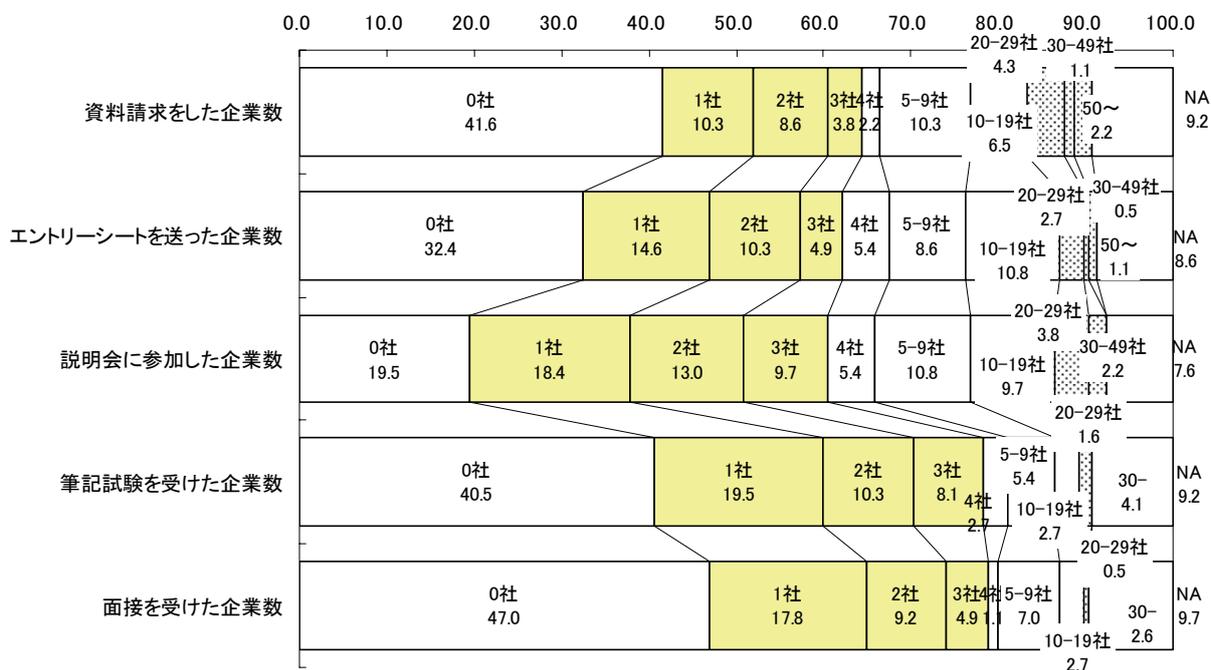
図表Ⅱ-21 就職のための諸活動を初めて行った時期の累計(「未定・迷っている」場合)



就職支援サイトに登録するなどの準備をした者のうち、「就職活動をした」という者は、そのさらに6割ほどである。「就職活動をした」者に、接触した企業について尋ねてみると(図表Ⅱ-22)、企業説明会・セミナーに参加したものが最も多く7~8割の者が経験している。説明会・セミナーへ行った企業の数は、1社のみという者が2割を占め、全体平均に比べればかなり少ない。さらに、その後の段階といえる筆記試験を受けた者は約5割、面接試験を受けたものは約4割である。すなわち、説明会のみで次の段階に入っていないものが、2~3割いる。就職活動を停止するタイミングはいくつかあるが、多くがいったんは企業に接触するところまで行っている。企業と接触した後に進路への迷いを深めているということだろうか。なお、接触企業の平均数で比べれば(図表Ⅱ-23)、やはりその数は大幅に少ない。

図表Ⅱ-21では、会社説明会にしる、エントリーシートの提出にしる、4年の8月以降は新たに始める者はほとんどいないことが分かるが、これと考え合わせると、就職希望者の過半数が内定をもらっている7月ごろから、活動が低下しているのではないかと考えられる、周囲に内定情報が広がる中で、今年の就職への希望を持てなくなるということもあるだろう。

図表Ⅱ-22 就職活動をした者の企業との接触の内容と接触企業数(「未定・迷っている」)



図表Ⅱ-23 予定進路と企業との接触(未定・迷っている/「無回答」を除く平均)

	説明会参加企業数	面接を受けた企業数
全体平均	11.7	5.7
無活動・未定・迷っている	3.5	1.1

注;それぞれ上下5%を除く平均値。

未内定で就職活動をしていない場合には、「卒業後について予定していること、考えていること」および「いま困っていること」を自由記入の形で書いてもらった。ここから、現状までのプロセスと今の思いが垣間見られる。まず、就職活動を始めたものの結果が得られない中で、うまく方向の修正ができないでいる者の例である。

- ・「何社か受けたがいずれも内定を取ることはできなかった。そのため、自己分析を繰り返し、自分のやりたい事、したい事がわからなくなった。」(法、21歳、男性)
- ・「三年次に自己分析をして企業説明会や試験を受けたが、自分自身がどんな職に就きたいかが何がしたいのか分からない。大学で学んだ分野に興味がなく卒業研究にも気持ちが入らない。大学は入ってからでないといけない部分もあるが、高校の時に将来のことを考えておけば良かったと後悔している。」(工学、21歳、女性)
- ・「秋には行って特にやっていない。1つ1つ受けていってもなかなか決まらず、今は間が空いている。」(人文、21歳、女性)

あるいは、最初から、「やりたいこと」がわからないと踏み出せない次のようなケースも少なくない。

- ・「まだやりたいことがわかってないからこんな時期だごげない。・・・どうすれば就活にふみだせるかを知りたい。今一步踏み出せない。」(商・経、22歳、男性)
- ・「何らかの形で1人立ちしたいと思っています。自己分析不足のため、何が向いているのかが全く分からない。」(商・経、22歳、男性)
- ・「将来やりたい事が見つかると思い入学をしたので、やりたい事が見つからず、あせりを感じている。」(商・経、22歳、男性)

やる気が出ない、自信喪失、どうしたらいいかわからないという戸惑いの声も少なくない。

- ・(困っているのは)「自分のやる気が出ない事、やらなきゃとは思う。」(社会福祉、21歳、女性)
- ・「就職はしたいと思っているが、体がうごかない。」(人文、21歳、女性)
- ・「自分自身を見失い、精神的不安定の状態が長びき、就活におくれた事でさらに不安がつわり、自己嫌悪ばかり続いている」(家政、22歳、女性)
- ・「なにから始めてよいかかわからない。」(商・経、22歳、男性)
- ・「就職活動について、具体的なことが(何をすれば良いのか)全くわからない。学校も「早くしろ」とは言うが、それだけである。」(社会福祉、22歳、女性)
- ・「就職したいと思っても、今まで勉強してきたことを生かせる仕事がありません。」(芸術、22歳、女性)

一方で、ゆっくりと考えていくという選択もある。

- ・「とくに、何も考えていない。まだ自分がしたい事がわからないので、いろいろな本や、いろんな人と話しをして、自分を見つけようと思っている。」(人文、21歳、女性)
- ・「まだ考えてない・・・あまり苦しめていない」(社会福祉、21歳、男性)

進学との間で心が揺れているケースも少なくない。進学のための経済的負担をどうするか

も大きな問題となって方向を決められないでいる。

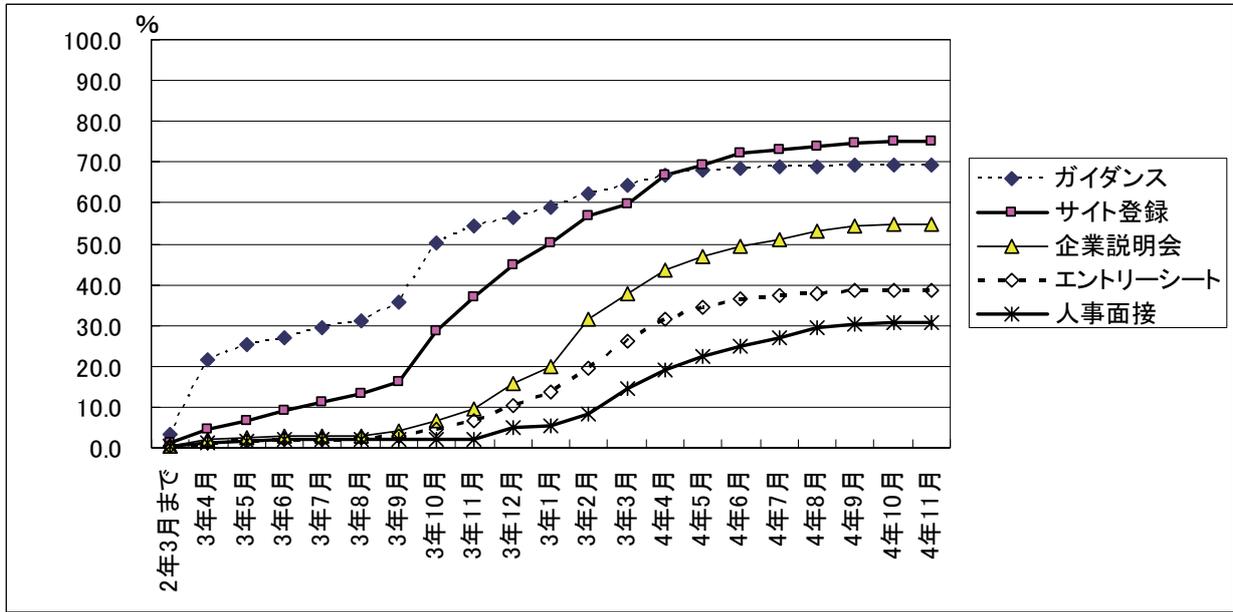
- ・「進学したいので、そのためのお金や生活費を準備するため、一旦就職して落ち着きたい。仕事をしながら受験勉強したい。・・・何から始めたらいいのかわからない。自分に合う進路、職種がわからない」(人文、21歳、女性)
- ・「院にいきたいけれど、経済的な問題で(就職活動を)やります。・・・また、迷っている。相談できる人がいない」(農学、23歳、女性)
- ・「進学したいが資金がない。受からなかったとしてそれから就職するのは遅すぎる」(芸術、22歳、女性)
- ・「民間就活の他に教員採用試験も受験していたので、臨時採用の話がきたらそれを受けるか、院に進もうと思っている・・・院に進むとすると金銭的にかなりきつい。卒論が終わらない・・・」(教育、21歳、男性)

就職活動をしたが結果が得られず、方向の修正ができないまま中断してしまったケース、やりたいことがわからず、一步踏み出せないままのケース、時期に遅れたことでさらに不安が増す。具体的に何からはじめればいいのかという戸惑いもあれば、経済的な面での問題もあり、進学との間で心が揺れ動いている者もいる。不安定なこの時期を支える相談相手が非常に重要だろう。

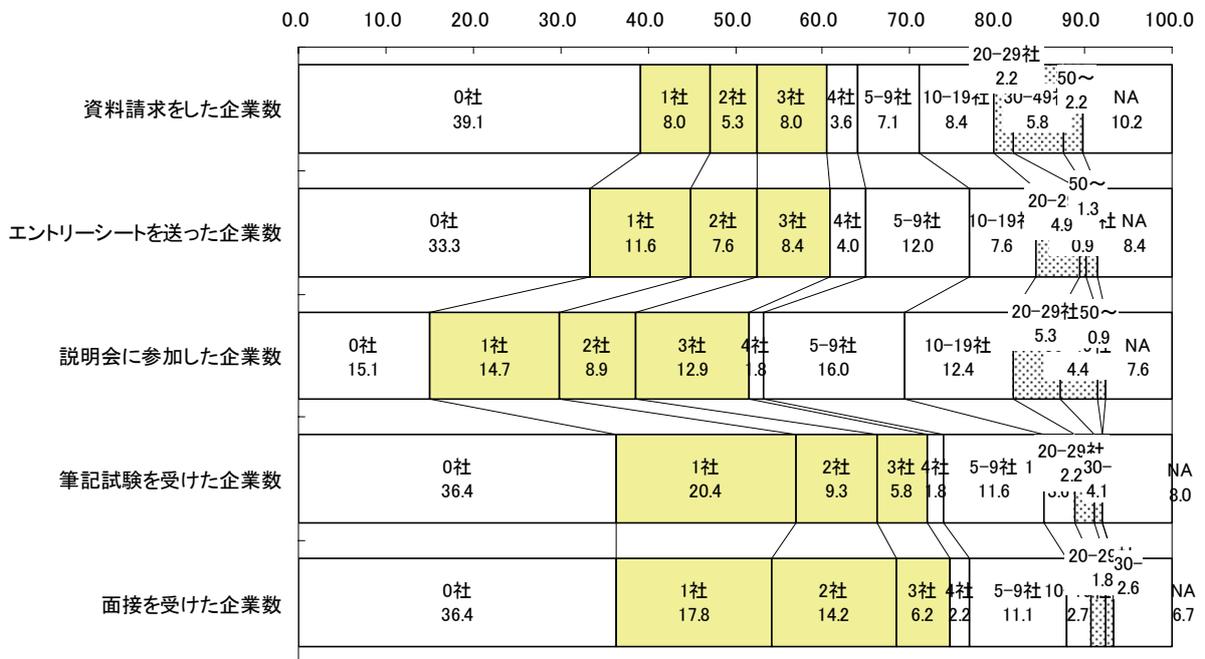
3) 就業希望だが現在就職活動をしていない者の就職準備・就職活動

卒業後の希望は就職だが、この段階では内定がないまま就職活動を継続していない者について見てみよう。かれらの76.6%が何らかの就職準備の活動をしているが、これは、就職支援サイトへの登録数とほぼ一致する。このうち「就職活動をした」者は約6割で、行った活動は企業説明会・セミナーへの参加が多い。「就職活動をした」場合の接触企業は、「未定・迷っている」グループよりは多いが、全体計と比べると少ない。

図表Ⅱ-24 就職のための諸活動を初めて行った時期の累計
 (「就職希望だが活動していない」)



図表Ⅱ-25 就職活動をした者の企業との接触の内容と接触企業数
 (「就職希望だが活動していない」)



図表Ⅱ-26 予定進路と企業との接触
(就職希望だが活動していない/「無回答」を除く平均)

	説明会参 加企業数	面接を受け た企業数
全体平均	11.7	5.7
無活動・就職希望	5.4	1.7

注;それぞれ上下5%を除く平均値。

やはり自由回答から、就職活動をしていない背景を探ってみよう。まず、これから就職活動を始めるといっている者がいる。多いのは、現在は資格試験に集中していて、資格取得後に就職活動をする者である。医療や福祉の専門職のケースである。また、地元に戻ってから探すという者もいる。後にも触れるが、大学と就業希望地の距離が遠いと、就職活動にかかる費用負担も大きい。卒業して実家に戻ってからという選択の背景にはそうした経済的な面もあるだろう。

- ・「福祉資格の国家試験が来年1月にあるので、就活はしておらず、勉強中。終わり次第、就活を始めるといっている。」(福祉関係、医療関係で)」(社会福祉、21歳、女性)
- ・「国家試験に合格してから就職する予定。」(薬学、22歳、女性)
- ・「ホームヘルパー2級の資格がもうすぐ取れるので、取ってから就職のことを考えようと思っている。」(商・経、23歳、男性)
- ・「就職するつもりだが、今は多忙なので年明けにやろうと思ってる。」(家政、21歳、女性)
- ・「地元に戻りたいので、近々地元のハローワークに行こうと考えています。」(社会福祉、21歳、女性)
- ・「実家に戻ってから仕事を探そうと思っています。卒業できるか未定なので今は勉強に専念しています。」(人文、21歳、女性)

就きたい仕事があるが、その求人が少ないために活動をしていないという者もいた。探す方法も分からないという場合もある。

- ・「自分が希望する施設(仕事内容、必要な資格など)がなかなかない。」(社会福祉、22歳、女性)
- ・「病院の求人が少なくどのようにして活動いいかわからない。」(社会福祉、22歳、女性)
- ・「特殊な仕事がしたいので、ネット以外の方法でどのようにさがせばいいかわからない。」(人文、22歳、女性)
- ・「小さな事務所に所属して、出来ればコピーライターの仕事をしてみたい。・・・どんなことから活動を始めたらいいかわからない。」(芸術、21歳、男性)

また、就きたい仕事についての正社員としての求人が少なければ、アルバイトでの就業でもかまわないとする考え方の者も多い。アルバイト先から誘われているケースも少なくない。

- ・「入りたい会社が正社員の募集がないのでアルバイトで入ろうと思っています。」(芸術、21歳、女性)

- ・「アルバイトでも会社や企業に入って社員登用で就職を考えています。新卒では狙っていません。」(商・経、21歳、性別不明)
- ・「企業で、人事面接を受け、アルバイトから働くことに決まった。特にその企業で働きたかったのでアルバイトからでも働こうと思った。」(工学、22歳、女性)
- ・「現在のアルバイト先より、正社員になってほしいと、言われている為。」(人文、21歳、女性)
- ・「アルバイト先から正社員の要請があり、最近悩んでいる。」(人文、21歳、男性)
- ・「今しているアルバイトで社員の人にキャリア社員の試験を受けないかと言われているので受けるつもり。今もリーダー手当をもらっていてやりがいがあるため。」(商・経、22歳、男性)
- ・「30歳になったら、喫茶店兼雑貨屋を営みたいので、アルバイトで知識や技術を学んでいこうと思っています。」(人文、22歳、女性)

逆に仕事内容にこだわらず、何でも良いから働かねばと言う気持ち強い者もいる。しかし、やりたいことにこだわらない自らの姿勢には、自信がもてないでいる。

- ・「なんでもいいので職(フリーター・派遣etc)をみつけて、働こうと思っはいる。就職はその後考えるか、まだ卒業まで少し時間があるので、もう少し悩む。・・・将来に希望が持てない。やりたい事がないといけないのでしょうか？」(人文、22歳、女性)
- ・「仕事を何でもいいので、何かの職に就きたいと考えている。本当に僕のような人間が、社会人になれるのか？」(農学、22歳、男性)

やりたいことがわからない、方向性につかめないという悩みを持つものはやはり多い。進学も含め選択の幅は広い。進学や就職活動のための資金を稼ぐ目的でのアルバイト選択もある。

- ・「就職活動に踏みきれずにいる。フリーターでもいいのでは？と思ってしまうこともあるし、海外留学をして専門性を深める勉強もしたいと思う。方向性が見えなくて、困っている。」(社会福祉、21歳、女性)
- ・「新卒で就職をしないと就職するのが大変になると聞いたので、必ず就職したいとは考えている。・・・自分がやりたいと思っている仕事がわからなくなってしまい、行動にうつせないでいる。真剣に考えていき、早めに結論を出そうと思っている。」(芸術、22歳、女性)
- ・「大切なことだがメンドくさいのでさきのぼしている。・・・興味をもっていることが何かわからなくなった。」(商・経、21歳、男性)
- ・「卒業後、就職する予定だが、また専門学校に通うことも考えている。だがそれをするかどうかを悩んでいる・・・。」
- ・「アルバイトをして資金をためて、留学することを希望します。」(商・経、22歳、男性)
- ・「今は就職活動をする金を稼いで来年卒業できるかどうかわからなくても、来年から始める。」(商・経、21歳、男性)

そのほか、採用試験の結果待ちなので活動をしていない者、内定を一回辞退して就きたいことへ方向転換した者などがいる。

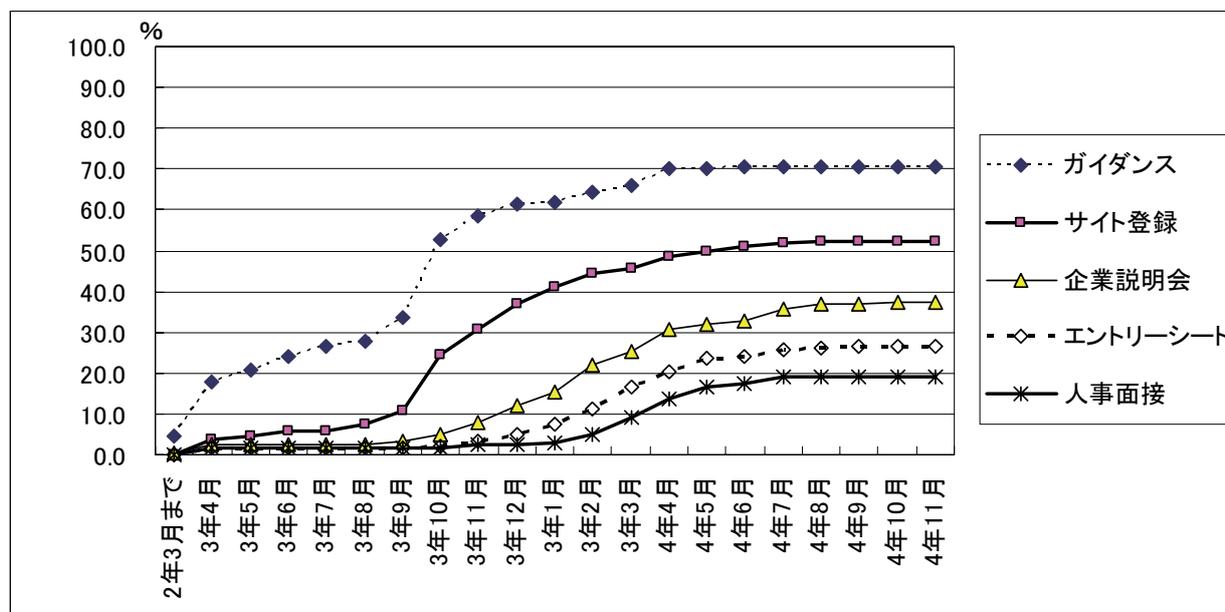
- ・「現在結果待ちなのでもし採用が決まればそこへ就き、不合格であれば来年に備えようと思っている。」(工学、22歳、男性)
- ・「内定待ち、落ちたらまた来年受ける」(芸術、24歳、男性)
- ・「内定を頂いたのですが、自分のやりたいことに挑戦したいと思い、やめました。保育資格

- を取得して養護（児童）施設につきたいです。」（家政、22歳、女性）
- ・「今秋からもう一度就職活動をする予定。・・・学校の単位が修得できていない。」（商・経、23歳、男性）

4) 公務・教員希望者(現在就職活動なし)の就職準備・就職活動

公務員、教員志望のために民間企業への就職活動をせず、公務、教員の結果がまだ出ていないから、あるいは、今年をあきらめて来年の受験のために勉強することを決めた者たちである。ただし、図表Ⅱ-27に示すように、全く民間企業に向けての活動をしていないわけではない。就職支援サイトに登録した者は半数に達しており、民間企業就職を一方で考えながら、公務員、教員の採用試験への準備をしている状態である。

図表Ⅱ-27 就職のための諸活動を初めて行った時期の累計
（「公務・教員希望で活動せず」）



5) 就学希望の者の就職準備・就職活動

大学院進学者も8割が就職支援サイトに登録している。また、企業説明会には5割弱が出ており、採用面接も2割が経験がある。大学院への進学準備と就職活動を平行に行いながら、迷っているものが少なくないことがうかがわれる。専門学校や留学を希望しているケースも同様である。就職活動をしなが、意識は進学との間を行き来している状態で、最終的な進路では、進学に届かないこともあるかもしれない。「未定・迷っている」者との違いはそれほど大きくないのではないと思われる。就職活動の時期が3年次後半まで早まっているだけに、進学者についても進路選択の前倒しが起こっているという認識の下に、相談体制を整備する必要があるだろう。

7. 就職活動の積極性と内定

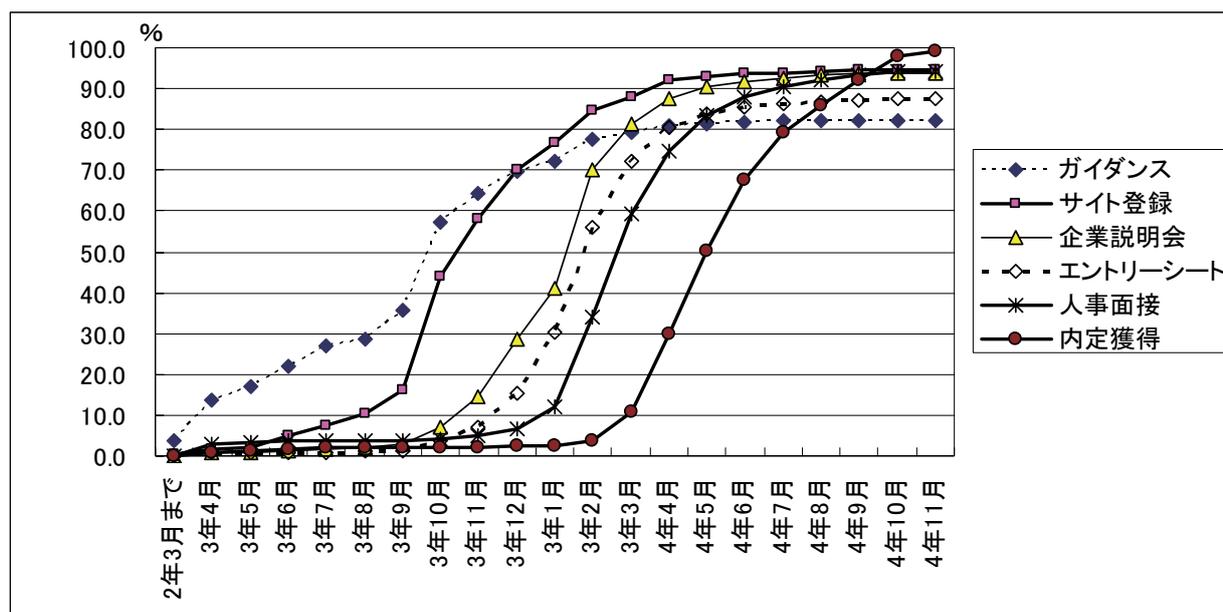
次に、正社員に内定した者と、求職活動をしながら内定はまだ得られない者の活動状況の差を見てみよう。

1) 正社員内定

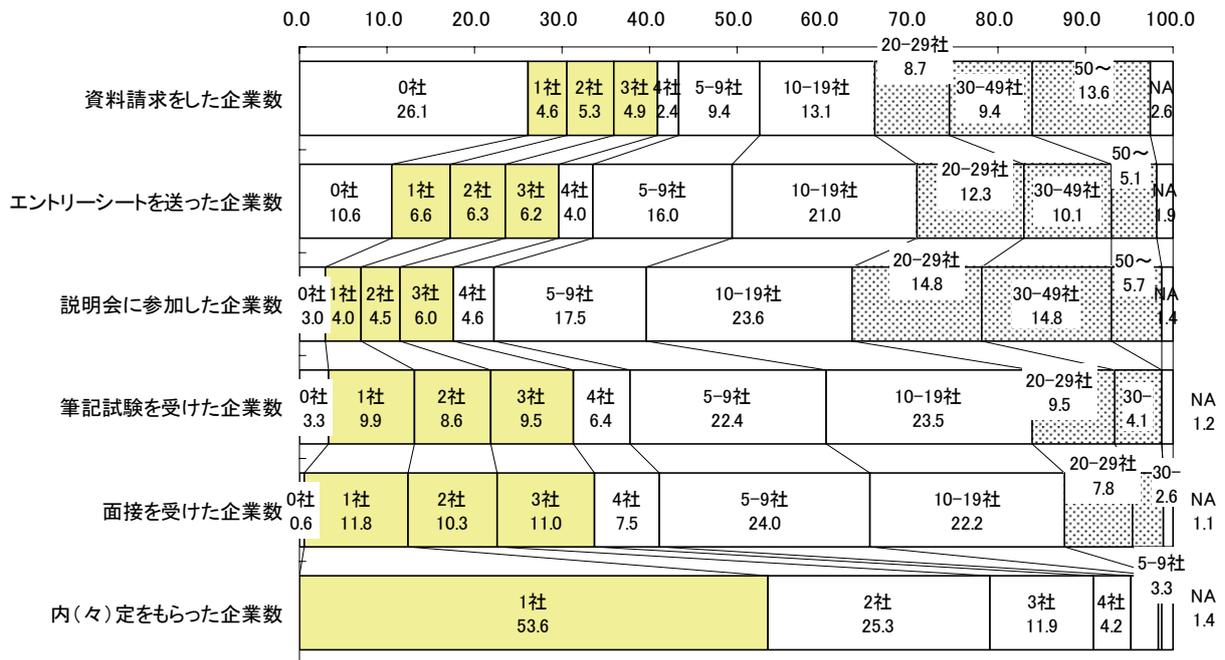
内定をすでに得た者は、企業説明会への参加やエントリーシートの提出などの時期が早く、3月には6割が採用面接を受けている。平均値でいえば、最初の会社説明会出席からはおよそ4.4ヶ月、最初のエントリーシート提出から3.8ヶ月で内定を得ている。

接触企業数も多い(図表Ⅱ-31)。説明会・セミナーに20社以上行った者が3分の1を占める。なお、内定企業数は1社というものが約半数で、複数企業から内定を得ている者が残りの半数を占める。2割は3社以上の企業からの内定をもらっている。

図表Ⅱ-30 就職のための諸活動を初めて行った時期の累計(「正社員内定」)



図表Ⅱ－31 就職活動をした者の企業との接触の内容と接触企業数（「正社員内定」）



2) 内定なし求職中

これに対して、内定をまだもらっていない者の状況は、すべての行動の立ち上がりが遅いし、接触企業数も少ない。しかし、卒業までにはまだ半年近くを残しており、今後決まる可能性は十分ある。就業領域によっては求人が遅く出る分野もあり、早く活動を始めれば内定が得られ、遅ければ得られないという単純なものではないだろう。分野ごとの詳細な検討が重要だろう。

4) 内定先の概要

次に、内定をすでに得た者の内定先の概要をみる。

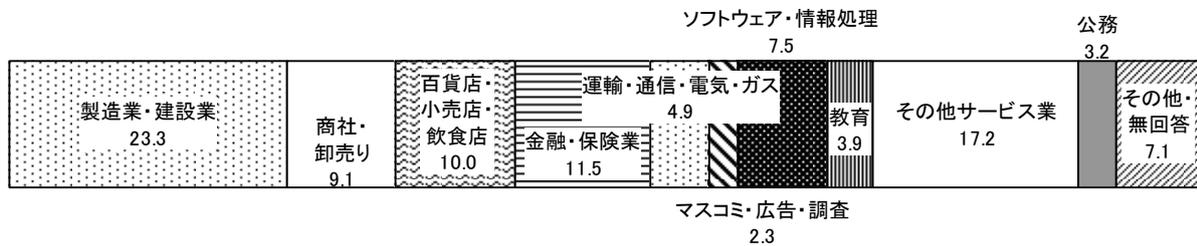
内定先の産業・規模・職業は下記のとおり。企業規模と大学の設置者・設置年とは一定の関係があるが、それほど大きな差ではない。一方、学部系統と職業の関係は明らかで、事務営業系に幅広く就く学部系統と、特定の専門職に多くが就く学部系統があり、これにより就職のプロセスは異なる。

また、就職経路は自由応募が多くなっており、教授や研究室の推薦が多かった工学系統でも自由応募が圧倒的に多くなっている。

内定先が、初めから行きたかったところだという者は3分の1で、途中から行きたいと思うようになったという者が半数以上を占める。これも設置者・設置年との関係を見たが、大きな差はない。「途中から行きたいと思う」という者が多いのは、就職プロセスで多くの情報を得、自分の価値観を確認するといった職業選択上の成長があったのではないと思われる。一方、まだ迷っているという者も1割弱いる。

内定先への勤続については、男性では定年までが3分の1を越え、女性では「わからない」が最も多い。

図表Ⅱ-35 内定先の産業



図表Ⅱ-36 内定先の規模

単位:%、太字は実数

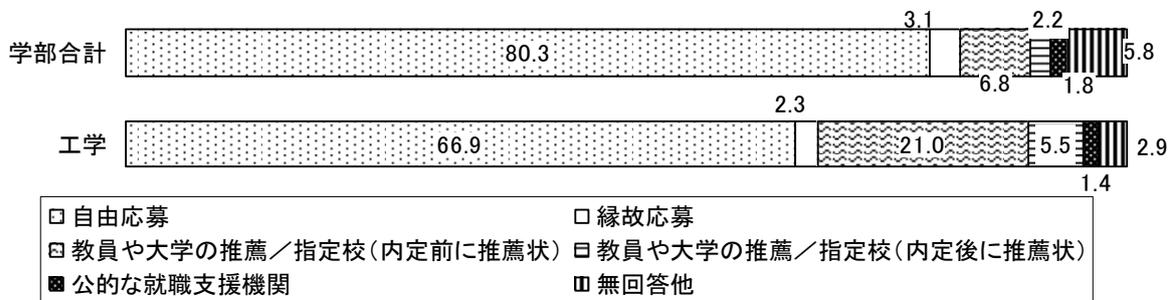
	合計	国立	公立	私立(~50年)	私立(50~90年)	私立(90年~)
合計	100.0 12,182	100.0 2,202	100.0 1,097	100.0 2,986	100.0 4,192	100.0 1,705
99人以下	11.2	8.3	10.2	8.1	12.5	17.7
100~299人	13.7	11.5	15.0	10.9	14.7	17.8
300~499人	9.4	8.5	9.8	8.9	9.8	9.9
500~999人	11.4	11.4	14.2	11.5	11.6	8.6
1,000~4,999人	20.2	22.0	22.1	24.1	18.4	14.1
5,000人以上	12.1	13.7	10.7	17.8	9.7	6.6
官公庁・学校など	3.2	8.1	3.3	3.1	1.7	0.9
わからない	12.7	10.2	9.8	10.5	15.0	16.1
無回答	6.2	6.4	5.0	5.0	6.5	8.3

図表Ⅱ－37 内定先の企業で予定されている職業

単位：％、太字は実数

	学部系統計	人文学系	社会科学系	工学	理・農・薬学	教育	家政・生活科学	芸術	社会福祉	文理融合・水産他
	12182	2455	4170	2696	937	384	610	318	453	159
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
未定	18.8	18.7	23.1	18.2	14.6	14.1	9.0	13.2	10.8	23.3
営業・販売職	30.4	35.4	44.4	12.6	21.2	17.7	28.0	22.0	17.2	34.6
事務職	11.7	21.5	15.1	1.4	3.1	13.8	8.9	7.2	11.3	13.2
技術職	17.6	3.0	4.1	57.5	21.5	3.1	7.5	20.1	2.9	11.3
教育・保育士	0.8	4.6	0.4	0.4	0.9	27.1	4.4	3.5	1.8	0.6
その他の専門職	3.2	4.8	2.9	2.2	26.9	5.5	28.4	22.3	41.9	5.0
無回答他	10.7	12.0	10.0	7.7	11.8	18.8	13.8	11.6	14.1	11.9

図表Ⅱ－38 就職経路

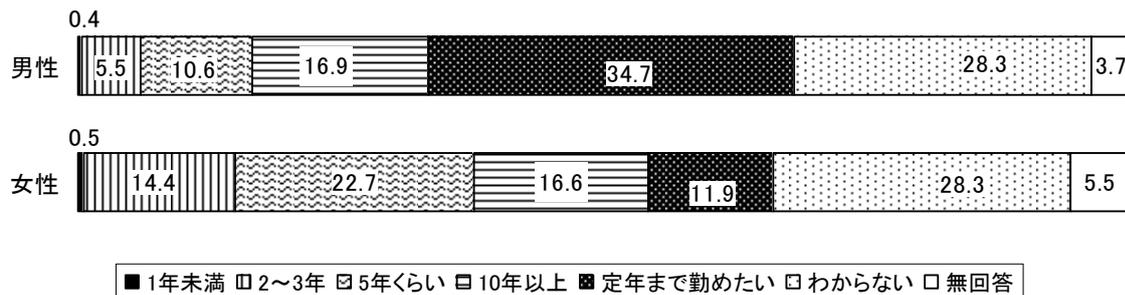


図表Ⅱ－39 内定先にいつから行きたいと思うようになったか

単位：％、太字は実数

	合計	国立	公立	私立(~50年)	私立(50~90年)	私立(90年~)
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	12,182	2,202	1,097	2,986	4,192	1,705
はじめから行きたいと思っていた	34.1	36.3	32.3	38.0	31.8	31.1
途中から行きたいと思うようになった	53.0	51.0	58.7	52.9	53.4	51.3
まだ行くことを迷っている	8.1	7.4	5.4	5.6	9.7	11.6
無回答	4.7	5.3	3.6	3.5	5.2	5.9

図表Ⅱ－40 希望継続期間

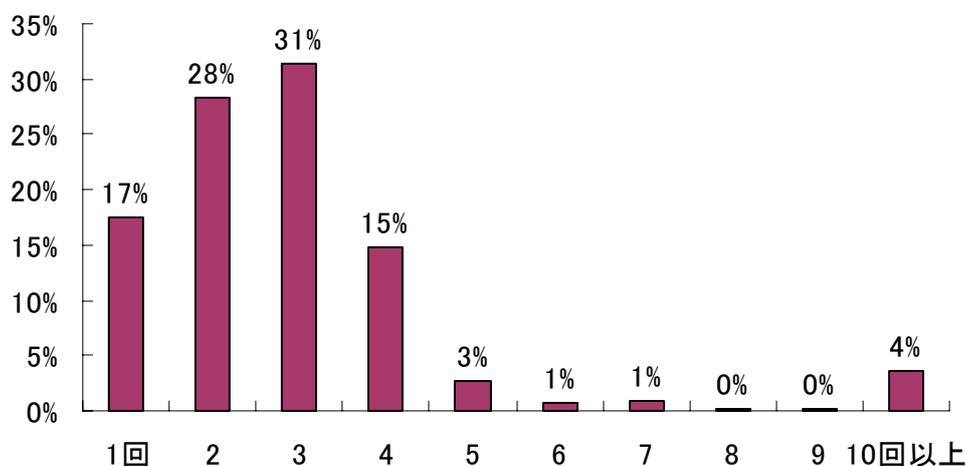


4) 採用面接の実態と問題

内定までのプロセスで、採否に最も大きな影響を与えるのが面接である。ここでは、学生側から見たときの現在の採用面接の問題点を考える。なお、採用面接についての質問は、一部の調査で付帯的に行ったため、サンプルは限られている。

まず、現在の内定先での採用が決まるまでの同企業の面接回数を尋ねたところ、2、3回という者が最も多く、95%が5回以内であった(図表Ⅱ-41)。一方、わずかではあるが、10回以上と面接回数が非常に多いケースもあった。

図表Ⅱ-41 就職予定の内定先での面接回数(N=602)



また、面接の時期は、面接回数5回以内の場合、平均的には4月から5月にかけて始まり5-6月に(内)内定が出る形で、1ヶ月強、延べ面接時間は1時間半強で決まっている。これに対して、6回以上の面接があったというケースでは、平均値で言えば、始まりが2月中で終わりは6月末という3-4ヶ月にわたる期間で、かつ、延べ面接時間は平均7時間半以上となっている。

図表Ⅱ-42内定先の面接回数・面接時間・時期(面接回数別)

	全体	面接回数5回以下	面接回数6回以上
内定先面接回数	3.3 回	2.5 回	12.5 回
内定先合計面接時間	2.1 時間	1.6 時間	7.6 時間
内定先・最初の面接時期	4.7 月	4.9 月	2.3 月
内定先・最後の面接時期	5.9 月	5.9 月	6.0 月

就職協定廃止後、採用期間の長期化が指摘されているが、これは一つの企業が最初の学生に内定を伝えてから最後の学生に内定を伝えるまでの期間で論じられることが多い。これは、学生にとってみれば、早く結論をもらう学生がいる一方、面接を受けてから最終結果まで3

ヶ月以上もかかる学生もいるということである。採用面接に関して自由記入を求めたとき、学生の不満の第一は結果の伝達が遅かったり、予定から大幅にずれていたり、さらに予定そのものが知らされていないことである。自由回答からいくつかの声を紹介しよう。

- ・採用試験が個人個人で異なり、1度の面接の結果を出すのに2ヶ月かかっている企業があった。結局半年間採用試験を受け続けたが、あまりに期間が長すぎて疑問を持った。(女性、22歳、社会科学系)
- ・採用試験の可否通知が郵送で届くという話でしたが、具体的な期限を示されたわけではありませんでした。しかし某就職活動掲示板のウェブページで、その企業から既に可否通知が届いているという書き込みが何件も寄せられていたため、忘れられているのではないかと不安が募っていました。3週間まで待ち、思い切ってその企業に電話で問い合わせたところ、人事の方から「今まだ検討中ですので、もうしばらくお待ちください」との回答をもらいました。その2日後に通知が郵送で届き、結果は不合格。消印は私が問い合わせた日と一致していたため、電話での対応内容との矛盾を感じ、その企業に対して不信感を抱きました。(女性、21歳、社会科学系)
- ・予定の結果通知日より一ヶ月以上遅れて内定の返事がきた。(女性、21歳、人文科学系)
- ・エントリーシートの結果が3ヵ月後までに出るとか結果が出るまでの時間が長すぎて、明らかに内定辞退者や面接、筆記試験に落ちた人員の補充目当てだと感じた。(女性、21歳、人文科学系)

特定の者が長期にわたり、採用線上に残り、面接回数を重ねるということで、慎重な採用であるという見方もできるが、学生にかかる負担は大きく、配慮が求められる。

このほか、学生の勉学や生活への配慮を求める声は、様々な形で出ていた。まず、一つは採用面接時の待ち時間である。長時間待たされるということと、終了予定時間を知らされないことから、他の予定が入れられないことへの不満がある。

- ・ある企業の最終面接で待ち時間が3時間以上あった。ただでさえ就職活動の時期はやらなければならないことが多くあるのに待たせすぎだと思った。(男性、23歳、工学系)
- ・終了予定時間をあらかじめ教えてもらえず、長時間かかったことがある。予定は空けといたのでよかったが、どうしても会社側が優位な感じがして時間の拘束が不快に感じた。(女性、22歳、人文科学系)
- ・大学の講義を休んで行っているのに、面接まで1時間待たされるのは、どう考えてもおかしいと思う。「そんなに採用する側は、偉いんですか？」と言いたくなる場面が何回もあった。どうか、民間企業に大学生の事情にも配慮するような就活にしてあげて下さい。(男性、21歳、社会科学系)

さらに、面接の日程が最初から明示されないこと、突然の呼び出しがあること、など学生側の生活はこれに振り回されている。

- ・急に電話で予定を聞かれ、日程調整が明日しかできないなど。新幹線で行くことになり、向こう側はそれを当たり前のような対応をした。学生で、金銭面の負担なども考えてもらいたい。面接を断ることは学生側からはやりにくいので。(男性、22歳、人文科学系)
- ・前日の夜に電話があって次の日に面接できるかという直前の連絡(男性、24歳、社会科学系)
- ・夜、いきなり「来てくれ」と言われたときは困りました。(女性、22歳、社会科学系)

さらに、面接の手法として、圧迫面接が取り入れられていたり、次のように長時間に及ぶ面接もあり、かなりのプレッシャーを感じている者も少なくない。こうした学生の状況を考えれば、企業が採用面接を実施する際には、学生の学業や生活に十分配慮することが必要であると考えられる。

- ・ 5時間半拘束はいくらなんでも長時間過ぎると思う。精神的にも体力的にも疲れた。(女性、22歳、人文科学系)
- ・ 面接の時間が毎回二時間くらいとる企業がありとても苦痛だった。胃が痛くなり、食欲がなくなった。何を聞かれるのか、毎回どんな質問をすればいいのか悩んだ。(女性、22歳、社会科学系)

8. 就職活動の地域による相違

就職活動の開始時期や接触の頻度は大学の所在地によって大きく異なった。ただし、これらが学部系統によって大きく異なるので、ここでは、民間企業に最も多くの学生を就職させている社会科学系統の学部にと絞って検討することにする。

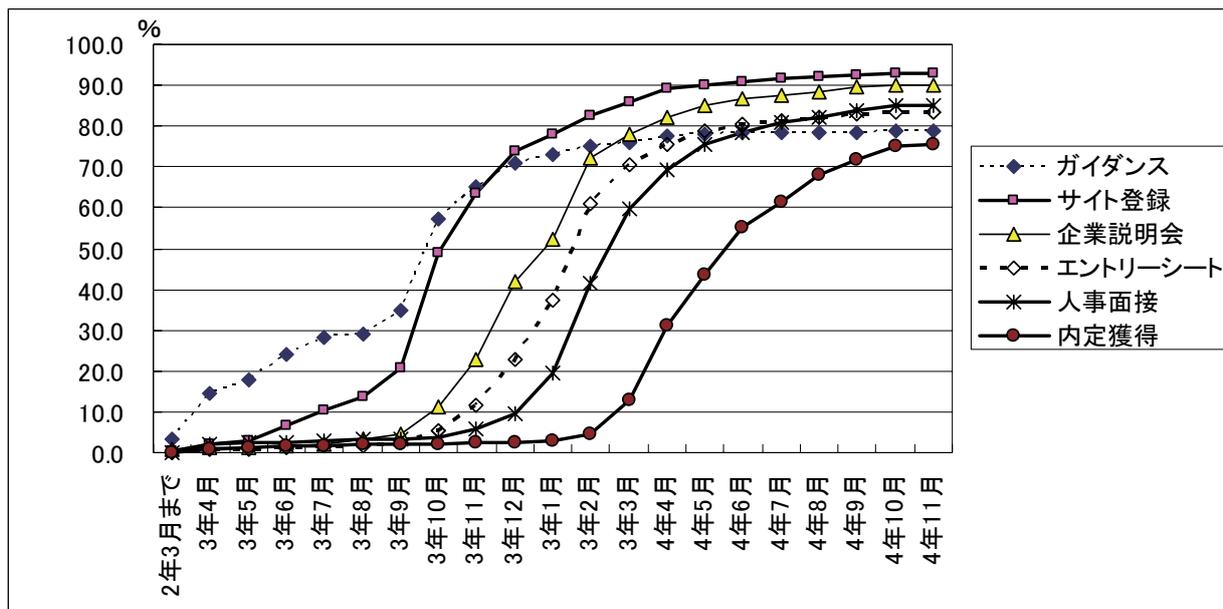
図表Ⅱ-43に示すとおり、企業説明会の参加数や面接を受けた企業数は、近畿や南関東では多く、北関東や東北・北海道、中部・東海地方では少ない。内定企業数も、近畿や南関東では多くなっている。数多くの企業と接し、積極的に応募している地域で複数内定を得る学生が多いということだろう。

図表Ⅱ-43 就職活動で接触した企業数(社会科学系・地域別)

	説明会参加企業数	面接を受けた企業数	内定企業数
合計	15.9	7.7	1.5
北海道・東北	11.5	5.5	1.2
北関東	11.2	5.0	1.2
南関東	18.8	9.0	1.6
中部・東海	11.1	5.5	1.4
近畿	22.5	10.8	1.5
中国・四国	12.5	7.1	1.6
九州・沖縄	14.5	6.8	1.5

注；それぞれ上下5%を除く平均値。

図表Ⅱ-44 就職のための諸活動を初めて行った時期の累計(社会科学系・南関東)



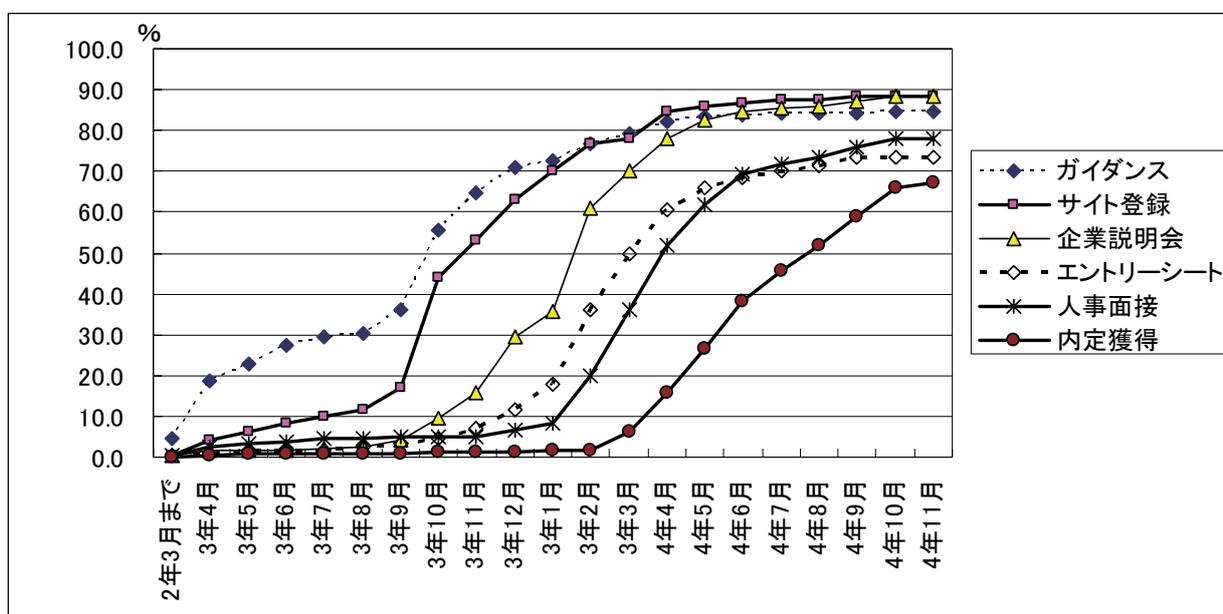
さらに、図表Ⅱ-44、45では南関東と北海道・東北地区の大学に所属する学生について、

それぞれの活動を初めて行った時期を載せたが、全般に南関東の学生が早く北海道・東北地区では遅い。

では、早くから数多くの企業に接触する就職活動が望ましいということなのだろうか。図表Ⅱ-46には、就職先内定までの期間を乗せたが、近畿は早く、南関東はむしろ遅い傾向がある。北海道・東北地方はというと、ほとんど南関東と変わらない。接触企業数が半数程度でも、同じような期間で内定をもらうに至っている。

結局、実際に就職する先は一つであり、卒業時までには決まっていれば無業にはならない。地域の労働市場の状況によって、「早く、数多く」という活動だけを奨励することはないのではないかと思われる。

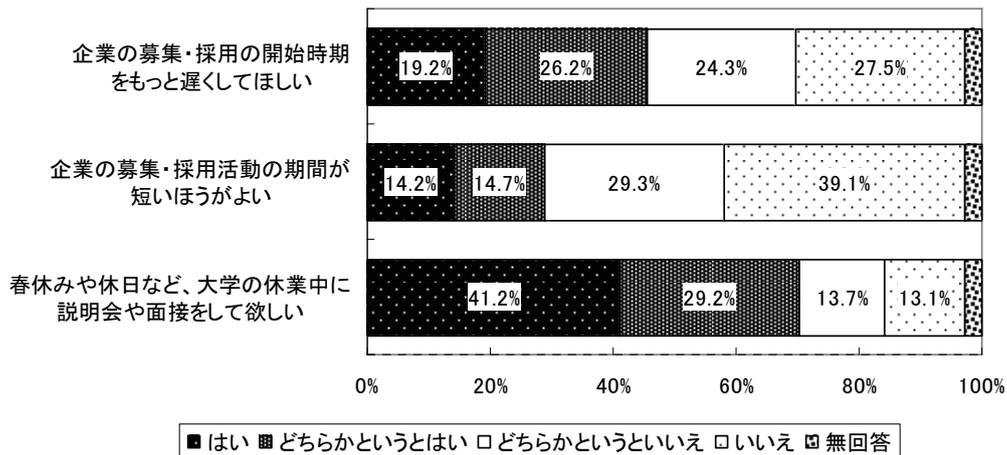
図表Ⅱ-45 就職のための諸活動を初めて行った時期の累計(社会科学系・東北・北海道)



9. 就職プロセスへの意見や感想

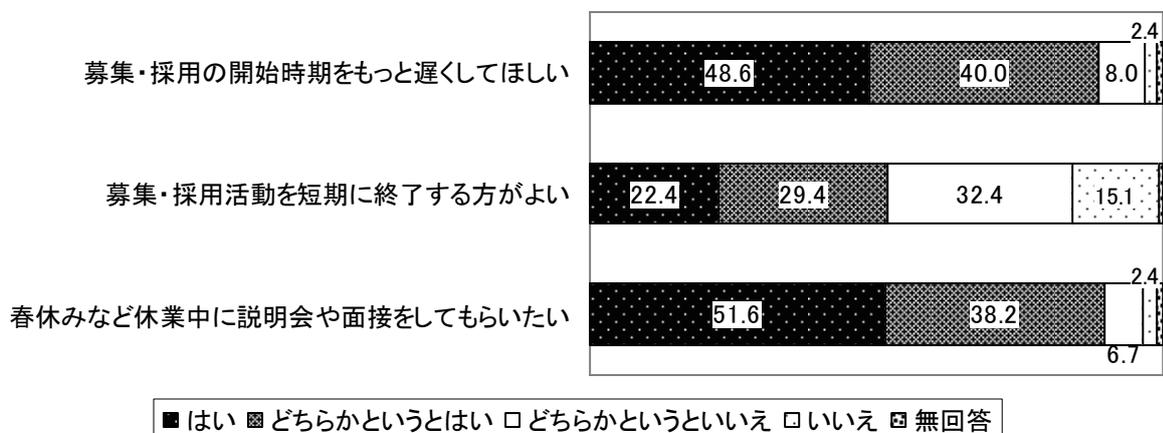
学生のスケジュールへの意見について検討する。本調査では、企業の募集採用活動の開始時期・期間の長短・学業との関連について学生に尋ねている。

図表Ⅱ-47 企業の募集・採用活動に対する学生の意見



全体としては半数弱が「企業の募集・採用の開始時期をもっと遅くしてほしい」と考えているに過ぎず、遅くしてほしくないという意見が半数を占めた。また「企業の募集・採用活動の期間が短いほうがよい」という問いに対しても、肯定する意見は少なかった。「春休みや休日など、大学の休業中に説明会や面接をして欲しい」という質問に対しては、おおむね支持されている。

図表Ⅰ-31 企業の募集・採用スケジュールについての意見(再掲)



「大学就職部／キャリアセンター調査」においては、大半が「企業の募集・採用の開始時期をもっと遅くしてほしい」と考えており、半数が「企業の募集・採用活動の期間が短いほ

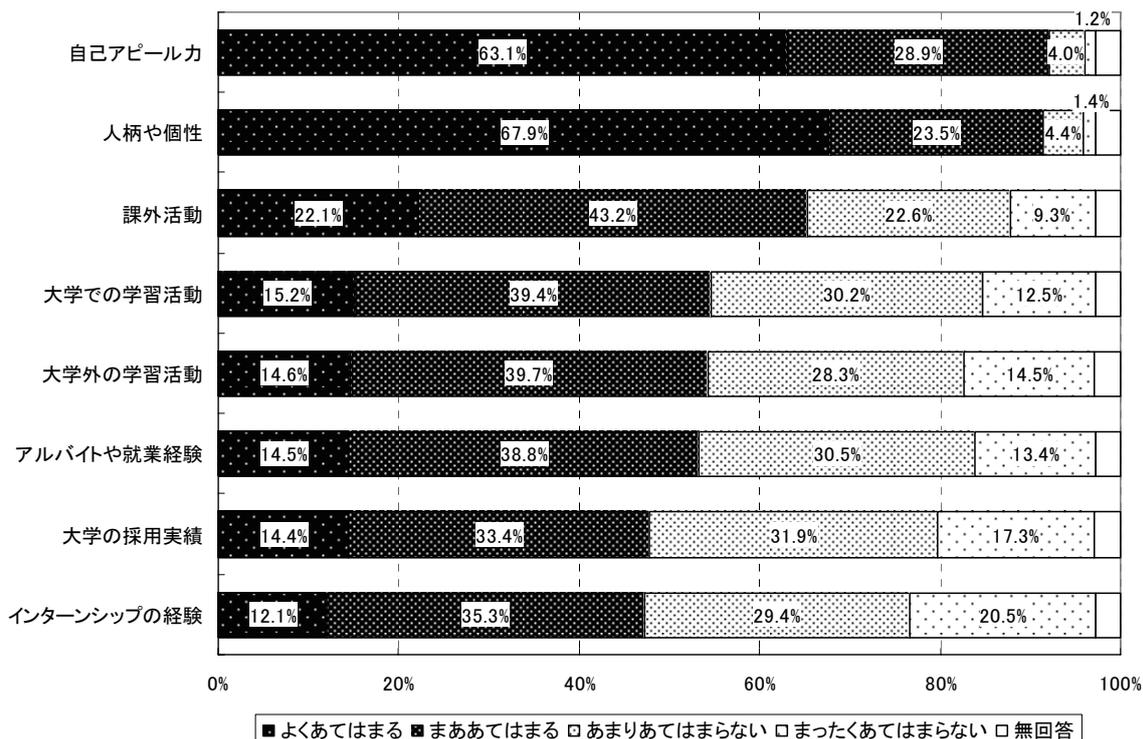
うがよい」と述べていることと比較すると、学生自身は現行の募集・採用活動スケジュールに対する不満はかなり弱いといっているが、自由回答の中では短い期間に集中する点が不満として挙げられていた。

- ・「就活の時期と教育実習の時期が重なったこと。秋採用が少ない。」（社会、21歳、女性、内定なし・就活中）
- ・「受りたい会社の説明会等の日がかぶってしまうことが多かった。」（人文、22歳、女性、内定なし・就活中）
- ・「スケジュール調整が大変でした。行きたいところの日程がかなり重なったりして難しかったです。」（社会、22歳、女性、留学・資格試験準備）

採用期間の長期化が指摘されているが、個々の学生にとっては、むしろ採用試験が短期に集中して、希望の企業があっても日程が重なって応募できないことが問題だと映っている。長期化は、企業が最初の学生に内定を出してから最後の学生に内定を出すまでの期間が長くなっていることを指していると思われるが、それが秋期採用や通年採用の形で示されれば、学生にとっては応募のチャンスの増加で歓迎される。それが明示されないまま、一部の学生は早く内定をもらい一部は引きのばされる長期化ではまったく応募のチャンスが広がらず、むしろ特定の企業の採用選考が引き伸ばされれば他の企業への応募チャンスを奪われることにもなる。採用のスケジュールを明示するなど、学生の立場に配慮した採用選考が行なわれるよう、企業の認識を喚起することも必要ではないか。

続いて、学生が就職において評価されていると考えている点を尋ねた。

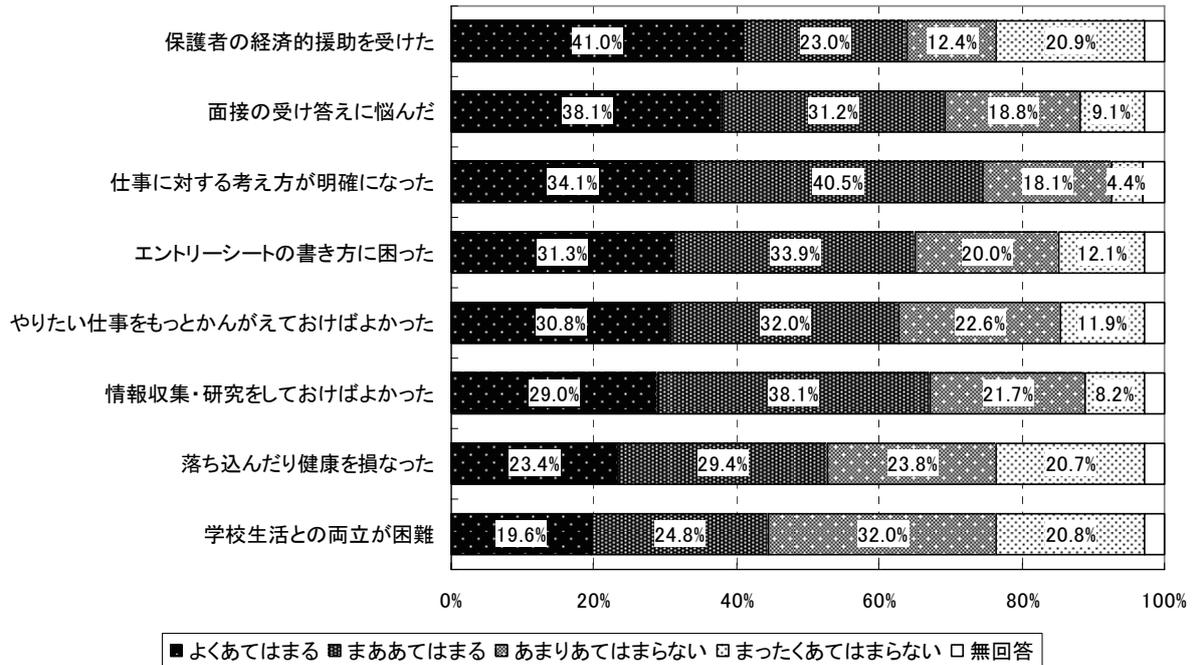
図表Ⅱ－48 大学生の就職で評価されている点



大学生が就職において評価されると感じている点は、①自己アピール力、②人柄や個性、③課外活動、が上位を占めた。

次に就職活動全般について尋ねた。

図表Ⅱ－49 就職活動を振り返って



「就職活動にかかるお金（リクルートスーツ代、交通費など）を保護者に援助してもらった」と答えた学生の割合は6割を超えており、就職活動にかかる費用は保護者の負担になっていることがうかがえる。しかし未定者の自由回答においては、交通費の捻出などの経済的問題、就職活動と生活のためのアルバイトとの両立の難しさなどが数多く書かれており、就職活動中の経済的負担は大きなものとなっている。特に地方の学生には交通費の高さがのしかかっている。

- ・「お金が足りなくなった。何をするにもお金がいるのに、バイトをする時間もなくて生活が苦しい。」（人文、22歳、女性、内定なし・就活中）
- ・「就職活動にかかるお金。全額自己負担なのが辛い。お金がないと活動できず、身動き出来ない時がある。」（人文、21歳、男性、内定なし・就活中）
- ・「首都圏での説明会が多く、行くだけでお金がかかるので、なかなか行くことができなかった。」（文理融合・水産その他、23歳、女性、無活動・大学院希望）
- ・「地方から都市部への説明会に参加する時にかかる交通費。地方大学と都市部にある大学では、就職活動に関する情報や状況に差があると感じた。」（社会、21歳、男性、他内定有）

実際の就職活動の中で「面接の受け答えの仕方に悩んだ」「エントリーシートをどう書けばよいかわからずに困った」と感じる学生はかなりの割合にのぼっている。未定者の就職活動中に悩んだことや困ったことを尋ねた自由回答でも、以下のような回答が記述されている。

- ・「面接時に、緊張しすぎて、自分が本当に思っている事を、うまく伝えることが出来なかった。」(人文、21歳、女性、内定なし・就活中)
- ・「エントリーシートを書くのが大変だった。」(社会、22歳、男性、内定なし・就活中)
- ・「ビジネスマナーがわからなかった。」(文理融合・水産その他、22歳、女性、内定なし・就活中)
- ・「面接に落ちた理由について色々考えるが、想像の域を出ないこと。何度も続くと自信の喪失につながる。」(人文、22歳、女性、内定なし・就活中)
- ・「自分がうまくいったと思った面接ほど落とされて、あまり印象のないものほど次の段階に進めました。だから面接の評価基準がわからなくて悩みました。」(人文、21歳、男性、他内定有)

「就職活動をする中で精神的に落ち込んだり健康を損なったりした」という回答も半数を占めている。

- ・「最終面接までいって落ちたりしたのはつらかった。1週間ぐらいは活動再開する気になれなかった。」(理・農・薬学、21歳、男性、内定なし・就活中)
- ・「精神的に辛い日々があった。カウンセラーがほしいです。」(文理融合・水産その他、22歳、女性、内定なし・就活中)
- ・「同じ企業を受けている友人が、自分より採用に近い面接段階に進んでいるのを知った時つらかった。」(人文、22歳、女性、無活動・公務教員希望)

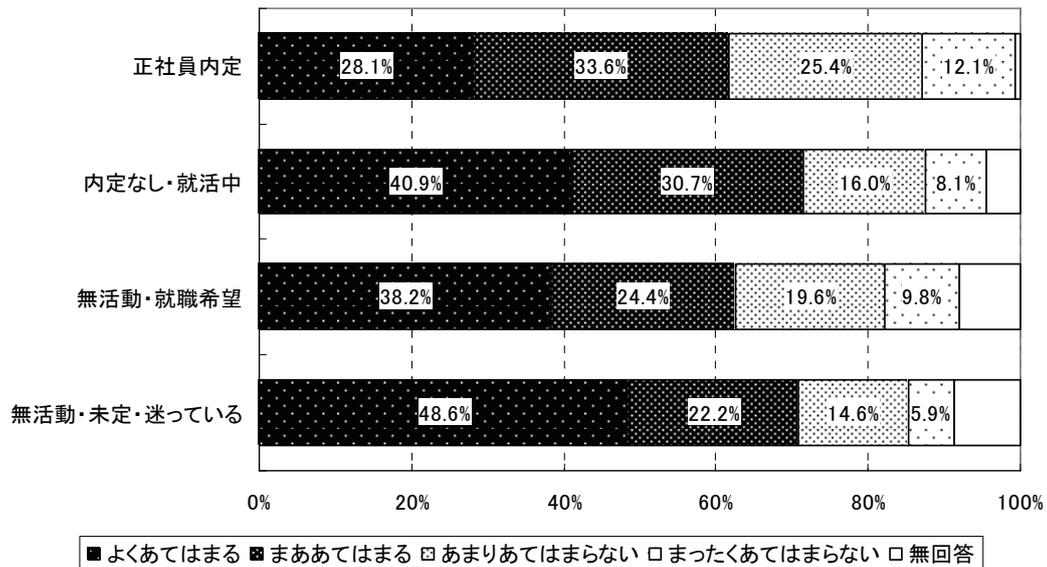
また「就職活動をする中で学業などの学生生活との両立が難しかった」と答えた学生の割合も4割を超えた。

- ・「就職活動期間が長すぎて、学業との両立が難しい(原文ママ)。4学年中に就職できないと、卒業後の就職は極めて不利になるので不安、卒業後の採用を増やすべき。」(人文、23歳、男性、内定なし・就活中)
- ・「企業説明会や面接の日にちが大学の授業とかぶってしまい、授業を休まなければならなくて困った。」(教育、21歳、女性、内定なし・就活中)

「やりたい仕事についてもっと考えておけばよかった」あるいは「業界や企業について、情報収集や研究をしておけばよかった」という回答も多かったが、就職活動をはじめる前にもっと準備が必要だったと感じている学生は少なくない。

さらに未定者と正社員内定者を比較して、差が見られる項目を取り出して図Ⅱ-50~52に示した。

図表Ⅱ-50 やりたい仕事をもっと考えておけばよかった



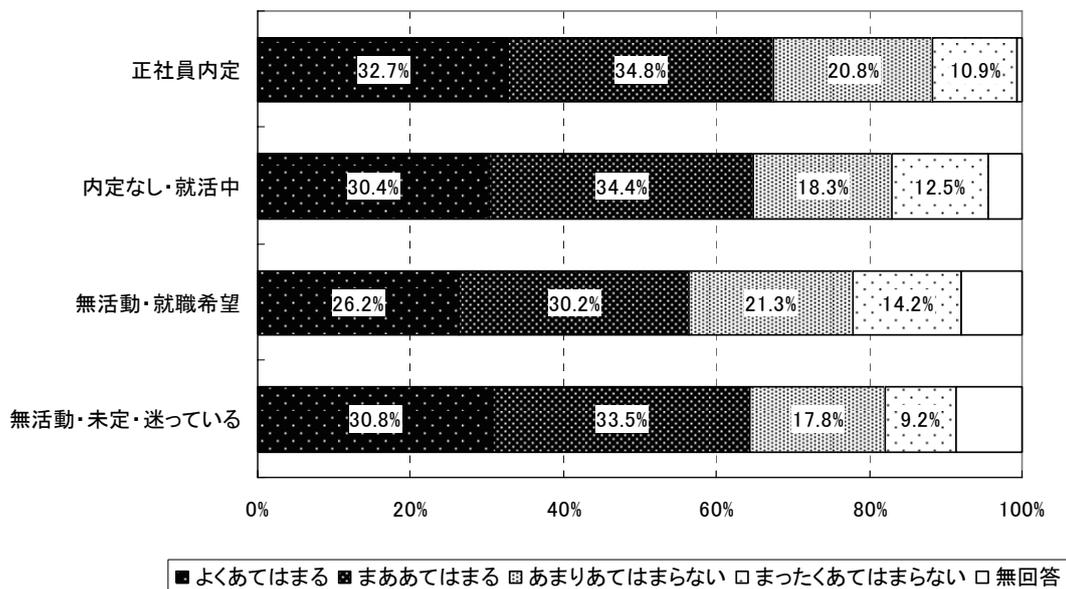
就職活動を継続しているが内定が得られない学生、迷っている学生は、「やりたい仕事についてもっと考えておけばよかった」と感じる割合が高くなっている。

未定者の中には、就職活動にあたり何をすべきか分からなかったという声や、やりたい仕事分からないという意見も多数見られた。

- ・「第一期生で、先輩がいないので、就職活動について話を聞いたりすることができず、就職活動をどのようににはじめていって良いのかが、わからなかった。」(文理融合・水産その他、21歳、女性、内定なし・就活中)
- ・「就職活動を始めようと思った最初の頃は、何から始めればよいのかわからなくて困った。」(理・農・薬学、22歳、女性、内定なし・就活中)
- ・「学生気分がぬげなくて、やる気がでなかった。」(社会、22歳、男性、無活動・就職希望)
- ・「やりたい事がみつからないので、就職活動にやる気がでない。」(人文、22歳、男性、内定なし・就活中)
- ・「やっぱり、企業側が何を基準に採用するのが分からないことで、途労におわるかもしれないと、今ひとつ、やる気にならなかった。しかし、今、もう一度始めるなら、もう少し要領よくできるのではとも思う。」(人文、22歳、男性、無活動・大学院希望)

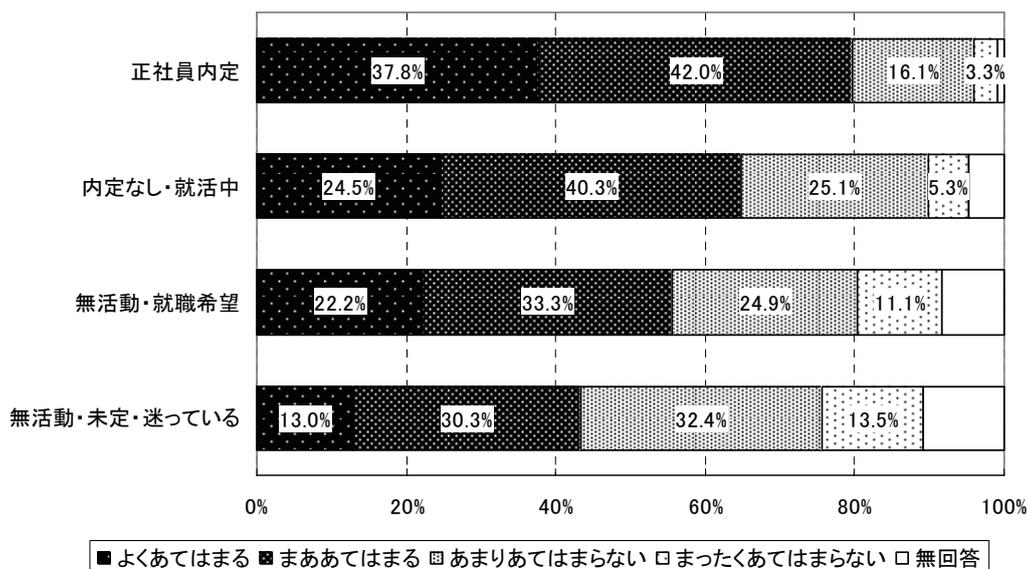
しかし進路予定別に見ると、正社員内定者が未定者に比べて何の問題もなく、順調だったわけではない。「エントリーシートをどう書けばよいかわからずに困った」という項目については、正社員に内定している学生の方が未定者よりも悩んだ経験を持っていた(図表Ⅱ-51)。なお図表は省略するが、「面接の受け答えの仕方に悩んだ」学生は、「内定なし・就活中」に多く見られ、正社員内定者で感じた者の割合は低かった。

図表Ⅱ-51 エントリーシートをどう書けばよいかわからなかった



正社員に内定している学生の場合、「就職活動をする中で自分の仕事に対する考え方が明確になった」という学生も少なくなかった。就職が決まっていないう学生に特に着目してさらに分析を加えてみると、就職活動を続けていても内定が得られていなかったり、途中で就職活動を辞めてしまった学生は、就職活動を通じた成長を感じられていない。

図表Ⅱ-52 就職活動をする中で仕事に対する考えが明確になった



正社員内定者は未定の者に比べて、就職活動当初は悩みを抱えていても、活動中に成長し、自分の就職活動を修正していっているというプロセスの違いがうかがえる。

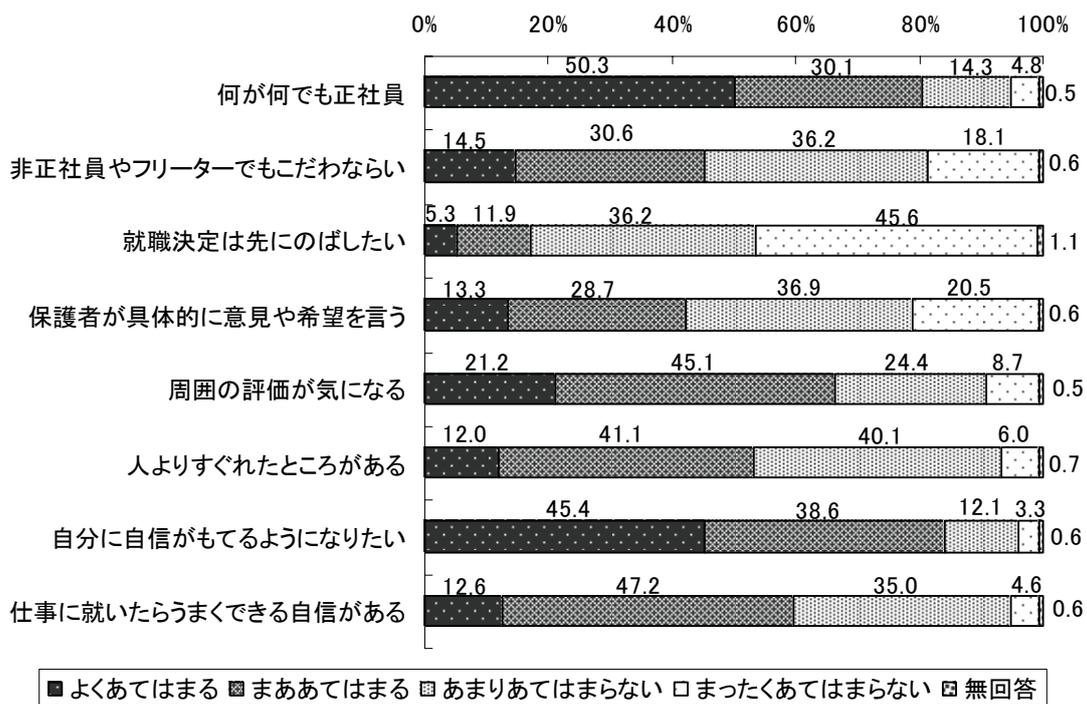
10. キャリア意識・職業意識

大学生の8割が「大学を卒業するときには、何が何でも正社員として就職したい」と考えている。その一方で「やりたいことであれば、正社員でも、非正社員やフリーターでもこだわらない」学生も45.1%いた。また、「できることなら就職決定は、先に延ばしたい」と考える者は2割弱であり、学生は卒業後の進路は早く決めたいと考えているようである。

進路を決める際には、親や保護者が影響をもつことがある。「私の親や保護者は、進路や就職先について具体的に意見や希望を言うことがある」と答えた学生は4割であった。

学生のなかには就職活動で精神的な負担を感じる者もいる。「自分には人よりすぐれたところがある」と考える学生は5割強、「仕事に就いたらうまくできる自信がある」学生は6割であるのに対し、「もっと自分に自信がもてるようになりたい」と考える学生は8割を超えていた。

図表Ⅱ－53 職業意識

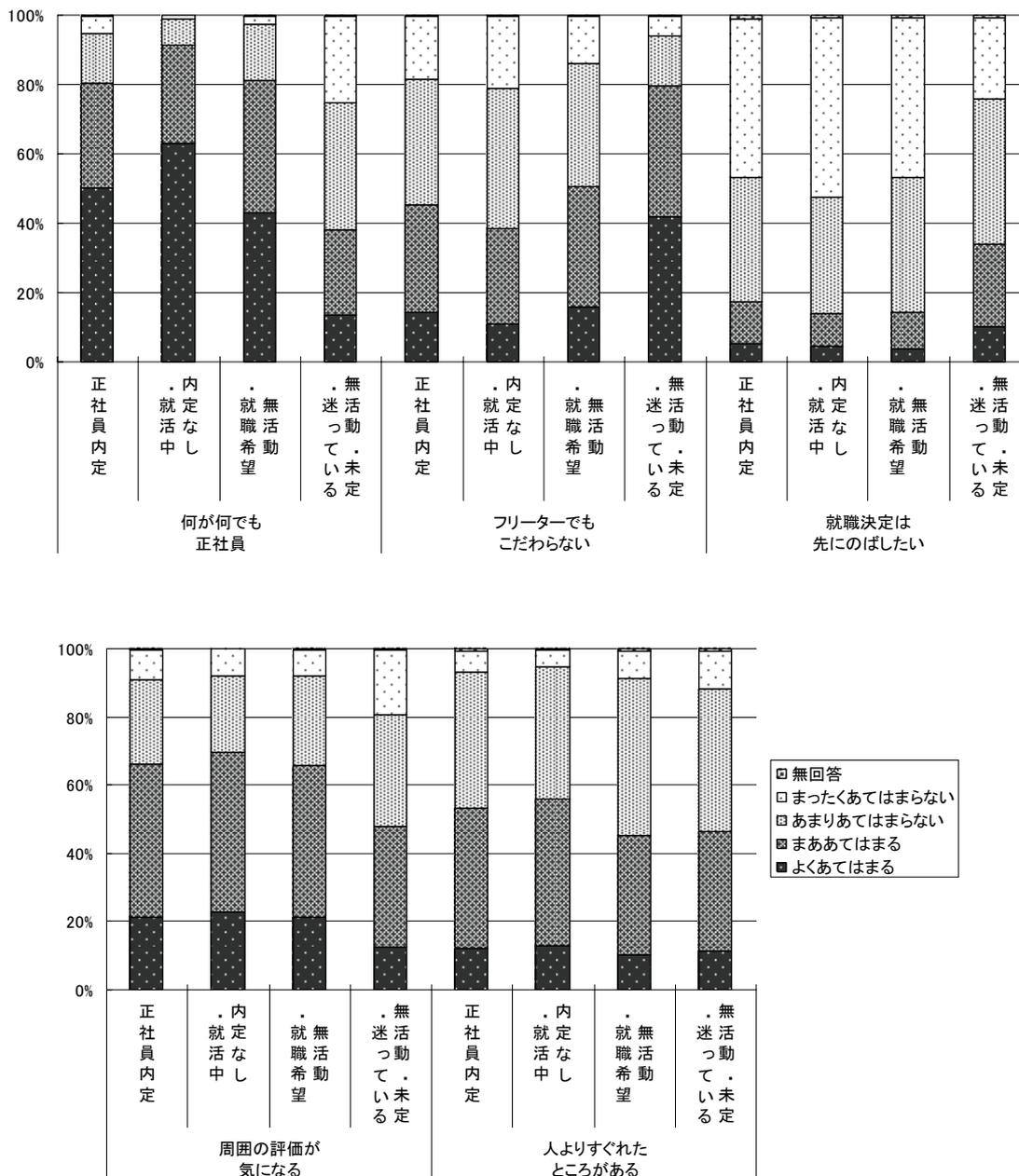


つぎにこの結果を「正社員内定」「内定なし・就活中」「無活動・就職希望」「無活動・未定・迷っている」の4つの就職活動／進路別に分けてみると、以下の項目で差が見られた。「大学を卒業するときには、何が何でも正社員として就職したい」と回答したのは「正社員内定」が最も多く、「無活動・就職希望」「無活動・未定・迷っている」では少なかった。反対に「やりたいことがあれば、正社員でも、非正社員やフリーターでもこだわらない」者は「無活動・就職希望」「無活動・未定・迷っている」に多い。

「できることなら就職決定は、先に延ばしたい」者は「無活動・就職希望」「無活動・未定・

迷っている」で4割近くを占めるが、「正社員内定」「内定なし・就活中」の者では1割強である。「周りの人からどのように評価されているのかが気になる」と回答した者は「正社員内定」「内定なし・就活中」に多い。「自分には人よりすぐれたところがある」と回答した者は「正社員内定」で最も多く、正社員に内定が決まったことが自信をもたらすと推測できる。

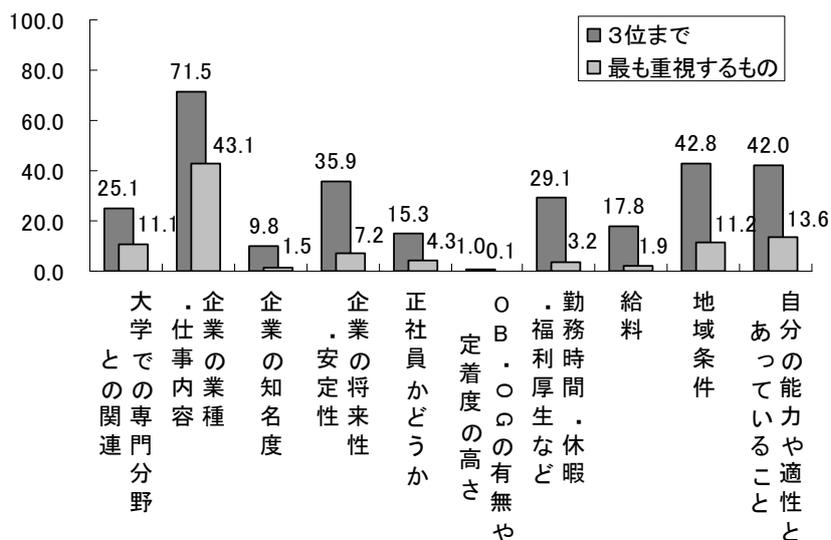
図表Ⅱ-55 予定進路別・職業意識



大学生が応募先を選ぶときに重視する条件を3位まであげてもらったところ、「企業の業種・仕事内容」を7割の学生が重視しており、4割の学生がこの項目を1位に選んでいる。

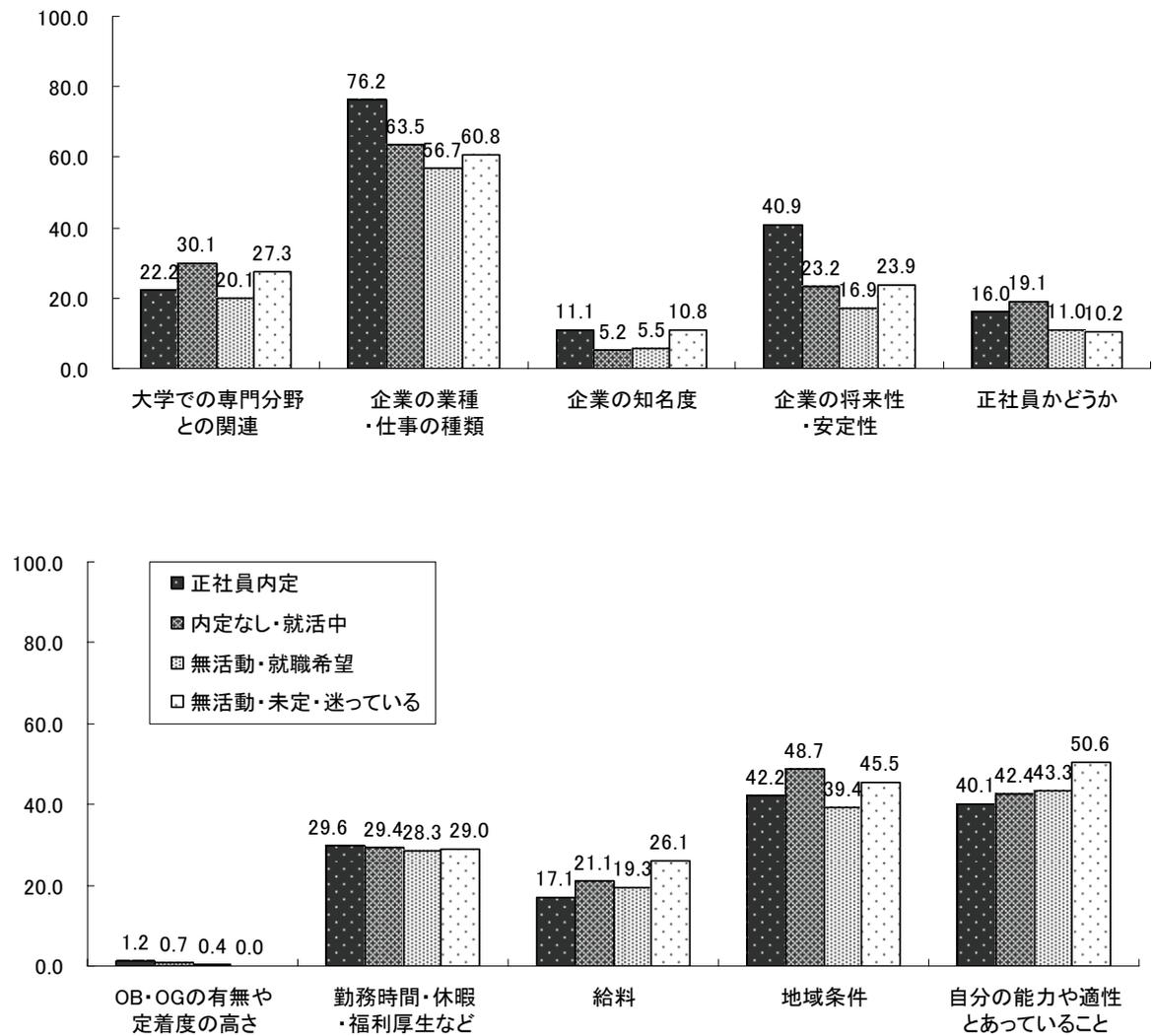
また、「地域条件（勤務地・転勤の有無など）」「自分の能力や適性と合っていること」という条件は4割の学生が重視している。反対に、「OB・OGの有無や定着度の高さ」「企業の知名度」はあまり重視されていない。「正社員かどうか」も15.3%の学生しか3位までにあげていなかった。

図表Ⅱ－55 応募先を選ぶ条件



つぎに、この結果を「正社員内定」「内定なし・就活中」「無活動・就職希望」「無活動・未定・迷っている」の4つの就職活動／進路別に分けて見た。「大学での専門分野との関連」「企業の知名度」「自分の能力や適性と合っていること」を重視しているのは「正社員内定」に多い。「内定なし・就活中」は、「地域条件」を重視する割合が高く、「無活動・就職希望」は特段の傾向は見られない。また、「無活動・未定・迷っている」者は「自分の能力や適性と合っていること」を重視する者が多い。

図表Ⅱ－56 予定進路別・応募先を選ぶ条件

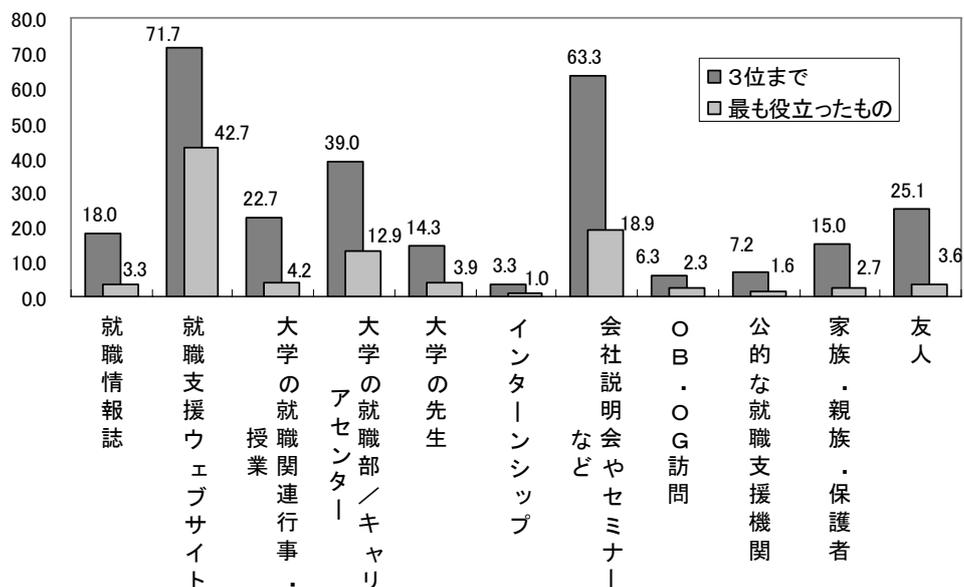


11. 就職支援への評価と相談機能

大学生は就職にあたって、どのような支援を利用しているのだろうか。

図表Ⅱ－57は、大学生が就職活動の際に利用した情報源について、3位までまた最も役立つ情報源について尋ねたものである。就職支援ウェブサイト、会社説明会やセミナーなど、大学の就職部／キャリアセンターが上位を占めている。

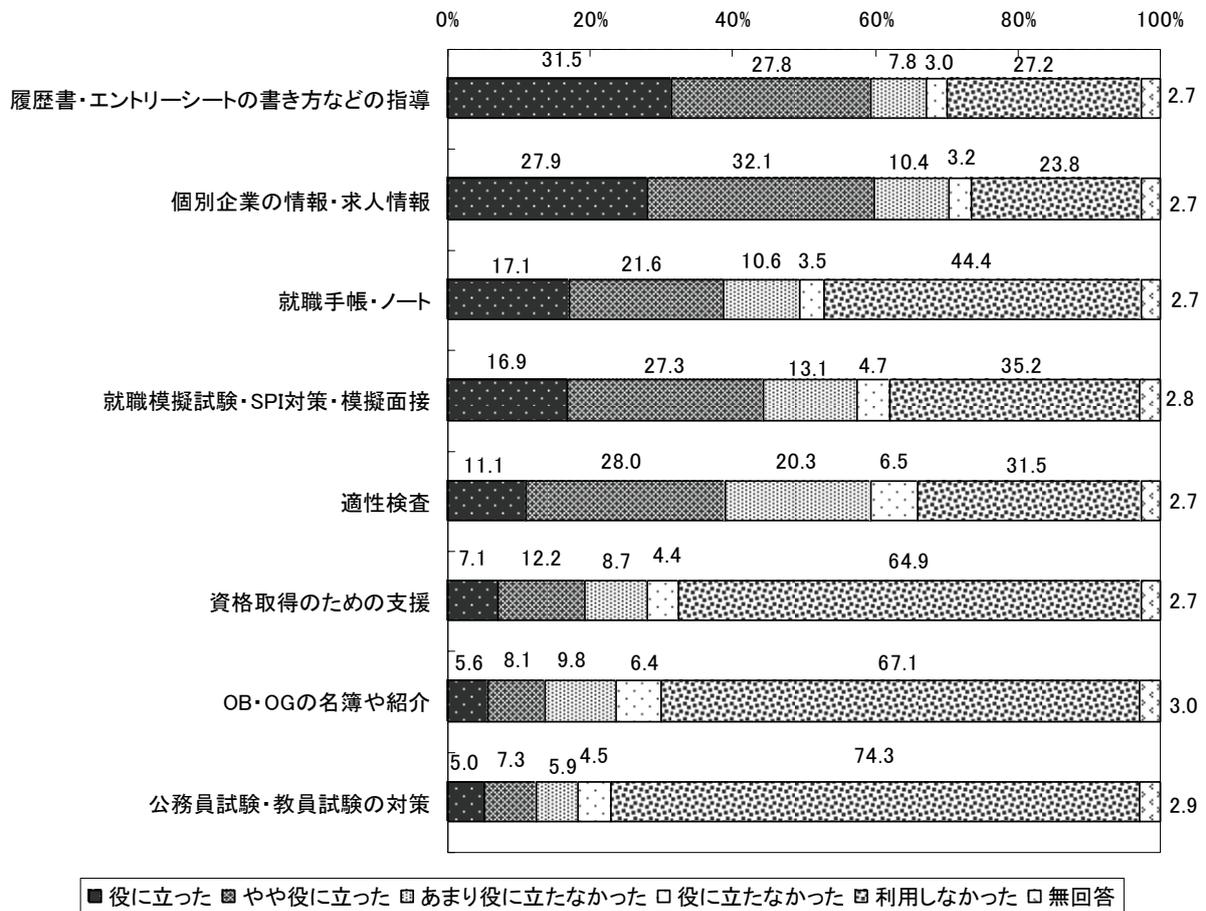
図表Ⅱ－57 就職活動の際の情報源



続いて、大学の就職部／キャリアセンターの支援の全体像について尋ねた（図表Ⅱ－58）。

大学の就職部（あるいはそれに相当する部署）が行っている支援のなかで「個別企業の情報・求人情報」と「履歴書・エントリーシートの書き方などの指導」については、6割の学生が役に立ったと考えている。「利用しなかった」学生が多い項目は、「公務員試験・教員試験の対策」（74.3%）、「OB・OGの名簿や紹介」（67.1%）、「資格取得のための支援」（64.9%）であった。受験や資格取得は一部の学生しか行わないうえ、大学外の機関を利用する 경우가多く、支援をしている大学も少ないため、「利用しなかった」学生が多いと理解できる。「OB・OGの名簿や紹介」を利用する大学生が少なかったのは、第4節で示したように、就職活動においてOB・OGへの連絡をすることが少なくなったことに起因すると考えられる。

図表Ⅱ－58 大学の就職部で役に立ったこと



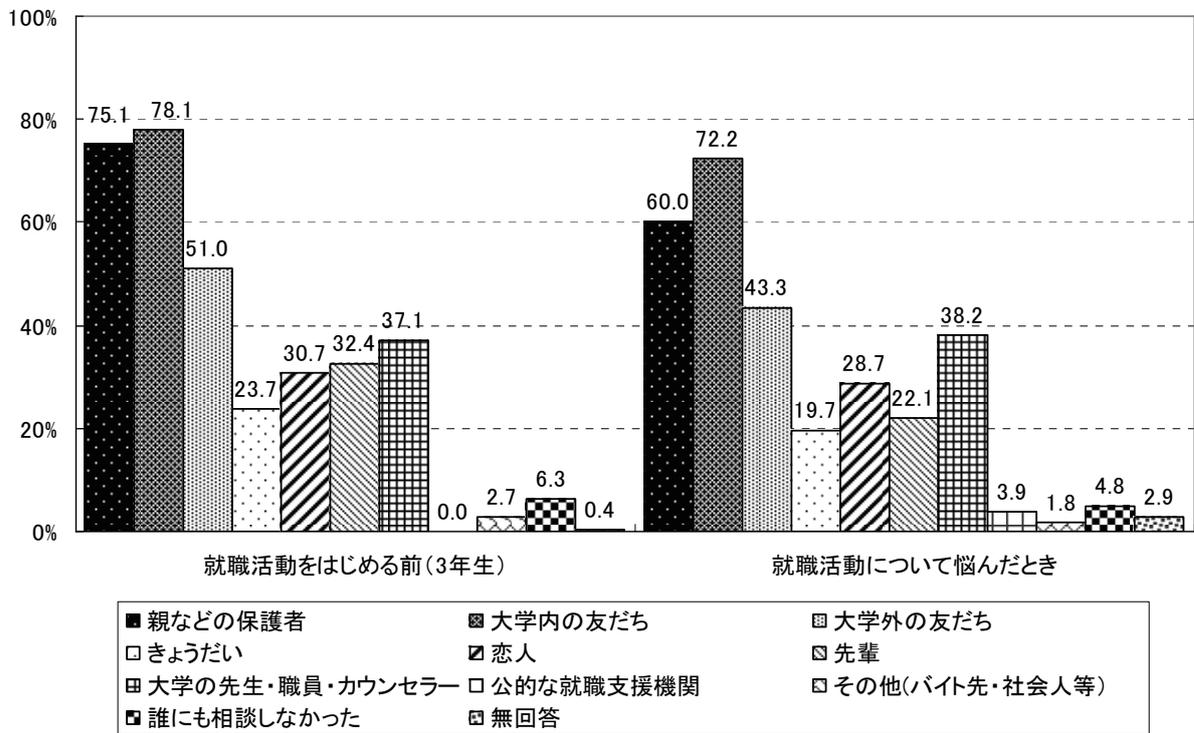
続いて、大学の就職相談機能について検討する。

学生は、卒業後の進路について誰と話し合ったり、相談しているのだろうか。就職活動をはじめ前の3年生の時点と、就職活動について悩んだとき、それぞれについて尋ねた(図表Ⅱ－59)。

就職活動が本格的にはじまる前の3年生の時には、「親などの保護者」「大学内の友達」「大学外の友達」が上位を占めている。

就職活動中について悩んだときに相談する相手としては、保護者の割合は減り、大学内の友達や大学の先生・職員・カウンセラーが相対的に重要性を増している。

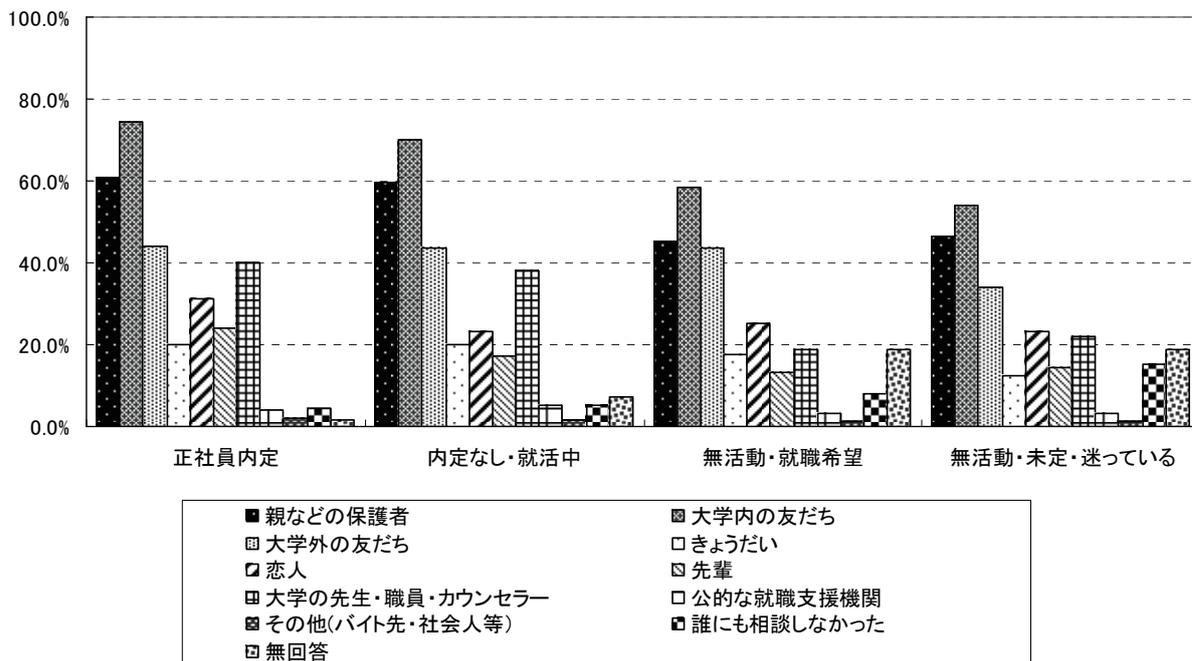
図表Ⅱ－59 進路についての相談相手



さらに、未定者に着目して検討を加えた（図表Ⅱ－60）。まず「正社員内定」者に比べると、未定者の相談は不活発であり、特に先輩や大学の先生・職員・カウンセラーに相談する割合が低い。内定は得られていないが就職活動を続けている学生は、大学の先生・職員・カウンセラーに相談する割合は正社員内定者とそれほど変わらないが、現在就職活動を続けない学生や迷っている学生は低くなっている。

とりわけ迷っている学生においては、誰にも相談しなかった割合が高くなっており、迷っている学生が孤立する状況をうかがわせる。

図表Ⅱ－60 予定進路別・就職活動中の相談相手



それでは未定者はどのようなことを感じているのだろうか、自由回答に分析を加えた。
まず相談相手がない、孤独という点が挙げられる。

- ・「誰に何を相談すればいいかわからなかった。」(社会、21歳、女性、無活動・公務教員希望)

さらに大学が想定している分野や職種でない場合には、大学の支援が手薄になっていることもうかがえた。

- ・「自分は、教育学部で周りは、ほとんど教員志望のため、孤独に勉強、情報収集等をしなければならなかった。」(教育、21歳、女性、内定なし・就活中)
- ・「学校の専門とする就職先への説明や支援に力を入れているが、それ以外への就職を希望している人への対処が手薄であるので根本的な相談できない。」(教育、21歳、女性、内定なし・就活中)

また、中にはサポートが不十分な大学に所属する大学生も含まれていた。

- ・「大学内に就職課がなく、就職についてのアドバイス等を聞くことができなかった。もう少し就職についてのサポートがあったら良いと思う。」(文理融合・水産その他、23歳、女性、内定なし・就活中)
- ・「論文の書き方がよく分からず、あまり書けなかった。学校でもっと指導をしてほしかった。」(社会、22歳、男性、内定なし・就活中)
- ・「就職活動で授業を休んでも欠席扱いにしかならないところ。新しい学校などで、募集があまりこないところ。」(人文、22歳、女性、内定なし・就活中)

以上から、大学の支援は就職活動を継続している学生にはよく利用されているが、途中で就職活動を停止したり迷っている学生には相談しにくくなっており、就職活動を再開するように促すことは難しい。こうした学生は大学からだけでなく、公的機関の支援もあわせて必要な層であろう。

